

●モノグラフ

小学生ナウ

Vol. 14-6

学級担任と子どもたち

目 次

学級文化の背景	深谷昌志	2
〔調査レポート〕学級担任と子どもたち		5
要 約		6
はじめに		8
1. 調査の概要		9
●担任のプロフィール		9
●担任と子どもたち		14
2. 担任への満足度		22
●満足度と担任のプロフィール		22
●担任への満足度とその差		27
●満足度を規定するもの		28
3. 上位群と下位群の差異を求めて		33
●教師のプロフィール		33
●教師の意識		35
●子どもたちの思い		38
●担任の評価		41
●クラス集団の差異		45
●担任への信頼		48
●担任を比較して		51
●信頼される条件		56
●まとめに代えて		59
〔対談〕アメリカの教育新事情と日本		加藤幸次 vs 深谷昌志
		61
・文献紹介『個別化・個性化教育はどこに向かうべきか』		69
資料 1 調査票見本および集計結果		74
資料 2 調査票見本および集計結果（教師用）		82

*おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとはいっさい関係ありません。



学級文化の背景

静岡大学教授
深谷昌志

「学級王国」の思想

学級担任に子どもたちがどういう気持ちを抱いているのか。それを考えようとしたのが本号の狙いである。

学校の子どもたちはどこかの学級に帰属している。そして、その学級を教師が統括している。形式的にみるとその通りだが、学級はひとりでにできたものではない。

教育現場には古くから「学級作り」という言葉があった。新学期、担任になると、子ども1人ずつの個性をつかみながら、集団としてのまとまりを作っていく。授業を始めるためにも「学級作り」が重要という教師が少なくない。そして曲がりなりにも、教師が思うように学級が動くようになるのに何週間かが必要だという。

そうした形で、担任が指導力を発揮して、子どもたちの学級に対する帰属意識を強め、学級の友だちを何でも話せる一種の身内集団

にする。具体的には、クラスの歌を作ったり、クラスの旗を決めたりして、学級を自分たちで作りあげる。学級の中では家族と同じように互いに信頼し助け合いながら行動していく。そうした延長線上に、いわゆる学級王国の思想が存在する。

学級は1つの完結した自治組織で、子ども集団のまとまりの上に教師が君臨する。という言葉がきついが、啓蒙君主のように子どもたちを善導するのが教師の役割となる。これまでの優れた教育実践はそうした学級王国的な土台をふまえているものが多い。

学習は個別なもの

そうした王国とまでいわないまでも、学級作りはどの担任も心がけているから、学級を土台にした活動はこの学校にもある、ごくありふれた光景になる。しかし、欧米の学校をイメージに置くと、学級集団という単位はそれほど当たり前ではない。

アメリカのどこかの学級をイメージしてみよう。授業の始まる前は学級にいる子どもたちも、授業が始まると離ればなれになる。何人かが集まって担任の指導を受けているかと思うと、他の何人かは自主学習をしているし、ボランティアの人から1対1で勉強を見てもらっている子もいる。そして、次の時間になると、子どもの組み合わせが変わり、また別の学習形態がみられる。

アメリカの学校ではもともと一斉授業が少ない。そして、一人一人の子どもが自分なりの学習計画表を持っていて、それに応じて行動している。つまり、学習の個別化が進み、子どもたちはそれぞれに学習をしているので、時間帯によって、1人あるいは少人数、そして、クラス全員のように学習する仲間の構成が異なる。そうすると、子どもたちは学級という意識を持たなくなるが、それ以上に担任が学級を統括する感じが失われていく。

それでは、欧州ではどうか。子どもを対象とした国際比較調査を実施するためにロンドンの学校を訪ねたことがある。小規模校が多いので、有効なサンプル数を確保するのに10校を超える学校を訪問するはめになった。せっかく学校に行くのなら授業を見せてもらおうと、教室の中に入らせてもらった。

最初の学校では文字通りの「オープン・スペースを利用したチーム・ティーチング」が行われていた。しかし、その学校は知識人の多い校区にあったので、一般化はできない。次に訪ねたのは労働者階層の住む下町の学校だった。そこでも、オープン・コンセプトの授業が展開されていた。そして、次々と訪ねた学校では、いずれも個別指導を基本とした授業形態がとられていた。

時間がくると、子どもたちがそれぞれの課題に応じた学習を始める。ある子は1人で、他の子は数人で勉強している。のびのびはしているが、クラスとしてのまとまりはない。そうした雰囲気をよくいえば1920年代から30年代にかけての新教育運動、例えばドルトンプランやニールの学校などの児童中心主義の

教育を具体化したものという印象を受ける。そして、冷たくイギリスの学校を批判するならば、幼稚園での自由遊びの時間を拡大したものに近い。

担任の話によると、登校してきた子どもはその日の学習スケジュールを担任と相談する。その計画にしたがって学習をしていくので、子どもはいきいきとし「個のよさを生かした学習」の感じになる。

それはよいのだが、教師は子どもたちが帰った後、子どもたちの個々の学習の記録を残し、翌日の学習計画を個人ごとに作らねばならない。そのため、学習計画の記録と作成に追まわられるという。

日本でも指導案作りが問題になる。しかし、1時間に1枚の指導案があれば、授業に臨める。しかしイギリスのようだと、子どもの人数分の指導案が必要になる。

個性化と学級王国

ここ数年、教育界で「個性化」や「創造性」などの言葉が流布している。これまでの学校では一定量の知識を効率よく伝達するのを使命としてきた。しかし、そうした「学校」の限界が見えてきただけに、「子どもたち一人一人の個性を發揮させる教育」を目指すのは望ましい改革の方向だと思う。そうはいうものの、現状では実態のないままに、「個性化」という言葉だけが一人歩きしている印象が強い。そうした授業を見ているうちに、一斉授業の形ではいかに努力しても「個」を伸ばすのに限界があると思うようになった。

考えてみると、一斉授業だと子どもたちは知識を受容するだけになりがちである。そうした受け身の形の状態から子どもたちの自主性を促す。そうした方策の1つが学級王国であったように思う。

そして、個性化に関連させるなら、学級王国の中で個性を育てることは可能であろう。しかしそれは、あくまで集団行動の中での個

性化で、一人一人の自立、あるいは個性化は不十分のように思われる。それなら一斉授業化から脱皮して、学習の個別化は可能なのか。正直に言って、日本の現状では脱皮のためのいくつかの前提が欠けているのに気づいた。

まず、施設の多様さが必要になる。教室の壁をとり払うのに加え、教室のまわりにさまざまな多目的空間がある。したがって、子どもたちは好みに応じて移動しながら学習を進める。小集団活動にはいくつかの空間が必要で、教室1つでは学級を解体しても動くスペースを見だしにくい。

次に、個別化された教育では、担任のほかにも補助教員や司書、ボランティアなどの多くの人が子どもの学習を助けている。当たり前のことだが、1人の担任が30人以上の子どもを抱えて、それぞれの個性を伸ばすのは言うは易く行いにくい。

さらに、個別化には教育設備面での財源的な裏づけが必要になる。個人用の机の他に3～4人用、6～7人用の机が欲しいし、何台かのパソコンも必要になる。資料室に人数分の参考書が揃っていることが学習の前提にな

る。したがって、こうした学習を続けるのに、一斉授業の形より費用がかかるのは確かであろう。

いずれにせよ、個別化を進めるには施設や人、財源などの支えが必要で、そうした前提を欠く個別化は素手で近代戦争をする、という例えが悪ければ、パソコンなしにビジネスをするのに近い。

そうした問題と同時に、「個別化」を進めるにはこれまでの「教師主導型の教育から子ども主体の学習へ」と学習スタイルの転換を必要とする。すでにふれたように、指導案を例にしてもこれまでの一斉授業を前提としたものから多様な学習が同時に展開できるものへの見直しが必要になる。そうした意味では教師自身の授業観を変えないと個のよさを伸ばすのは難しくなる。「個のよさが見える授業」がこれからの目標だというもの、実現への道はきわめて遠いと思った。

そうになると、現実的な指摘をするなら、学級王国的な長所を残しつつ、いかに個別化を図るのが、これからの教育の課題になるように思った。

〔調査レポート〕

学級担任と子どもたち

静岡大学教授 深谷昌志
杉並区立杉並第六小学校教諭 土橋 稔
目黒区立不動小学校教諭 矢部 崇
横浜市立上郷南小学校教諭 戸塚 智
埼玉県立小川高等学校教諭 三枝 恵子

(調査票は同人全員で検討した。)



調査レポート

学級担任と子どもたち

要約

● 調査概要

1. 調査主題 学級担任と子どもたち
2. 調査視点 登校した子どもは大半の時間を学級の中で送る。それだけに子どもたちの人間形成に学級担任の与える影響は大きい。そこで、子どもたちと担任の先生との人間関係を中心に調査・分析し、子どもにとって望ましい担任像とはどのようなものであるか探ることを目的とした。
3. 調査項目 ・子ども調査=担任との接触、担任イメージ、担任への信頼、担任への満足、クラスへの満足、自己像など。・担任調査=子どもとの接触の仕方、どんな先生と思われているか、自己評価など。
4. 調査対象 東京・千葉・仙台・富山の小学校4・5・6年生の56クラス、児童1,777名とその担任56名
5. 調査時期 1994年7月
6. 調査方法 学校通しによる質問紙調査
7. サンプル数

(人)

		4年	5年	6年	計
児 童	男子	200	352	384	936
	女子	166	338	337	841
	計	366	690	721	1,777
教 師	男性	5	13	15	33
	女性	7	9	7	23
	計	12	22	22	56

1. 教師は、「子どもの力を伸ばしたり」「子どもの自主性を伸ばしていこう」とする姿勢が強い。また、自分は「明るく朗らかで」「子どもと一緒にいるのが楽しい」というように、教師としての自己を高く評価している（表2～表5）。



2. 「今の担任の先生になってよかった」と感じている（担任への満足度）子どもは7割近くになっているが、逆に「よくなかった」という子どもも15%程度を占める（表15）。

3. 担任への満足度が最も高い学級は、子どもたち全員（100%）が「今の担任の先生になってよかった」と答えている。最も満足度の低いクラスは、その割合が13%にすぎない（表16）。

4. 6年生の持ち上がり学級について満足度の上位3クラスと下位3クラスとを比較してみた。

・教師の学級経営や自己評価の項目では、両群に顕著な差はみられない（表20）。

・「今の担任の先生になってよくなかった」と思う子どもたちの割合は、上位群の平均1%に対し、下位群は58%と半数を上回る（表23）。

・上位群の担任の先生は、学習面・友人関係など、様々な面でとても頼りにされている（表37）。

・上位群の先生を特徴づける項目は、「給食のとき、子どもの頃の話をしてくれる」「先生がまちがえたとき、素直にあやまる」「心配ごとは一緒に考えてくれる」など、担任と子どもたちとの心の交流を表す項目である。一方、下位群は、厳しさ、冷たさなどの項目で数値が高くなっている（表40）。

5. 今回の調査分析をして、担任の自己評価と子どもからの担任評価とのずれの大きさを感じた。残念ながら、教師たちの気持ちは子どもに届いていない。というより、子どもの気持ちを十分につかんでいない教師が多いのかもしれない。

時として厳しく叱ってもよいが、子どもたちの心をつかんでいないと、子どもの反発を招くだけにすぎない。一人一人の子どもたちの心をつかむことの大事さを本調査は教えている。



●

はじめに

学校で、学級で、子どもたちは楽しく充実した生活を送っているのだろうか。

また、先生とはどんな接触の仕方をしているのだろうか。学校でいろいろな問題が起こるたびにそんなことを思う。

教師と児童の関係は、教師以外のおとなが入り込むことが少ない、学校という、いわば閉鎖的な社会の中で成立している。しかも、実際に教育が行われている現場は、担任以外の教師も容易に入り込むことのできない密室を構成している教室である。その中で、1日の子どもたちの多くの時間が費やされていく。

したがって、子どもたちの人間形成に担任の先生が与える影響は計り知れないものがあり、学級の環境は子どもたちの成長にとって極めて重要である。しかし、すべてが子どもたちの期待している通りの教師というのは理想であって、現実には子どもの期待を裏切る教師も存在しよう。それだけに、毎日生活している子どもたちにとっては、先生との関係がどうであるのかは、非常に大きな問題となる。

これまでも『モノグラフ・小学生ナウ』は「子どもの求める教師」や「教師の子ども観」について全体の傾向を明らかにしてきた。しかし、教師と児童の生活の中心である学級を調査することは、その調査の性格上むずかしさがあり、vol. 2-5「子どもにとっての学級」で、数クラスを対象に行っているだけであった。

そのような中で、今回は子どもの教育環境に重要な要素である学級集団に焦点を当てて調査することができた。具体的には、子どもたちとその担任の先生とをマッチング（対応）させ、子どもの期待を満足させる、あるいは期待を裏切る担任がどういうタイプなのかを調査・分析をし、子どもたちにとって「理想の担任像」とはどのようなものであるかを探ろうとした。

調査対象は、4・5・6年生の担任教師56名と、そのクラスの子どもたち1,777名（男子936名、女子841名）。調査は1994年1学期末の7月に行われた。



●担任のプロフィール)))

調査は担任向けのアンケートと児童向けのアンケートで構成されているので、まず、教師調査の結果からみていくことにしよう。本調査に協力していただいた先生方のプロフィールについては表1にまとめた通りである。年齢は、30代後半で、教育系の大学を出ており、教師としての経験年数は15年前後の先生が多い。次に、教師がふだん、子どもたちとどのようにかかわろうとしているのかについてたずねたのが表2、表3である。表2

からは、教師は「子どもたちに厳しく決まりを守らせたい」としながらも、それ以上に「子どもの学力を伸ばしたり」「自主性を育てていこう」とする姿勢をうかがうことができる。次の表3からも子どもたちが自分のことを「子どもの気持ちをよくわかってくれる先生」と評価しているだろうと全ての教師が思っており、教師の子どもに対する前向きな姿勢が浮かび上がってくる。

表1 教師の属性

(1) 年齢 (%)					(2) 出身大学 (%)			
30歳以下	31～35歳	36～40歳	41～45歳	46歳以上	短大	4年制 教育系大学	4年制 普通の大学	その他
19.3	19.3	28.1	19.3	14.0	8.9	64.3	26.8	0.0

○は最大値 (以下同)

(3) 経験年数 (%)					(4) 結婚・子どもの有無 (%)			
5年以下	6～10年	11～15年	16～20年	21年以上	未婚	既婚・子 どもあり	既婚・子 どもなし	その他
10.8	21.4	23.2	23.2	21.4	19.6	69.7	8.9	1.8

(5) 専門教科 (%)											(7) 性 (%)	
国語	算数	社会	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	道徳	その他	男	女
28.5	17.9	12.5	8.9	0.0	1.8	5.4	0.0	14.3	0.0	10.7	58.9	41.1

(6) 今、力を入れている教科 (%)										
国語	算数	社会	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	道徳	その他
44.6	23.2	12.5	5.4	0.0	3.6	0.0	0.0	7.1	1.8	1.8

表2 子どもとの接触の仕方

	(%)			
	いつもそう	わりとそう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. どの子の学力も伸ばそうとしている	39.3	60.7	0.0	0.0
2. 子どもの自主性にかなり任せている	5.4	78.5	16.1	0.0
3. 厳しく決まりを守らせている	5.4	46.4	48.2	0.0
4. 休日でも子どものことが気になる	10.7	35.7	44.7	8.9
5. 休み時間などに子どもと一緒に遊ぶ	1.8	12.5	51.8	33.9

表3 どんな先生と思われているか

(%)

	とてもそう	わりとそう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. 子どもの気持ちをよくわかってくれる先生	57.1	42.9	0.0	0.0
2. おもしろい先生	5.4	55.3	35.7	3.6
3. 勉強に厳しい先生	10.7	48.2	41.1	0.0
4. 決まりを徹底する先生	7.2	46.4	46.4	0.0
5. 宿題をたくさん出す先生	8.9	37.5	48.2	5.4
6. 教え方がうまい先生	3.6	35.7	57.1	3.6
7. 出張が多く忙しい先生	3.6	26.8	57.1	12.5

また、教師自身は自分のことをどのように捉えているのだろうか。表4の(1)によると、教師自身の自己評価としては「とても・わりとうまくいっている」と答えた教師が43%、「少しうまくいっている」まで含めると9割近くの教師が学級経営は比較的うまくいっていると考えており、(2)から自己採点の結果も、

自分は平均以上と考えていることがわかる。また、(3)からは、自分のクラスの子どもたちによる採点も普通以上にみているはずだという自信に満ちているようであり、教師自身による評価と子どもたちによる評価はかなり一致していると考えられている。しかしながら現実には、ここでの「教師の考えるク

表4 教師の自己評価

(1) クラスの教育や学級経営 (％)

とてもうまくいっている	わりとうまくいっている	少しうまくいっている	あまりうまくいっていない	ぜんぜんうまくいっていない
1.8	41.1	42.8	10.7	3.6

(2) 教師としての自己採点（普通の教師を60点として） (％)

100点	90点	80点	70点	60点	50点	40点	30点以下
0.0	3.6	16.1	32.1	35.7	7.1	3.6	1.8

(3) クラスの子どもがつけると思う担任評価（普通の先生を60点として） (％)

100点	90点	80点	70点	60点	50点	40点	30点以下
0.0	1.8	17.9	23.2	46.4	8.9	0.0	1.8

ラスの子どもたちの担任の先生への評価」と子どもたちに調査した「子どもたち自身が感じている担任の先生への評価」(P. 21 表15)には、微妙な食い違いがみられることがデータから読み取れる。

さらに、表5は教師が自分をどう捉えてい

るかたずねたものだが、「同僚とうまくいっている」「明るく朗らか」であり、しかも「子どもと一緒にいるのが楽しい」というように、教師としての自分を高く評価している様子がみられる。

表5 自分のタイプ

(%)

	とてもそう	わりとそう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. 同僚とうまくいっている	12.5	82.1	3.6	1.8
2. 明るく朗らか	10.7	71.4	17.9	0.0
3. 子どもと一緒にいるのが楽しい	17.9	67.8	14.3	0.0
4. 人から頼られる方	3.6	58.2	38.2	0.0
5. スポーツが得意	9.1	50.9	27.3	12.7
6. すぐに行動に移す方	5.5	50.9	41.8	1.8
7. 学校以外の友だちがたくさんいる	7.1	46.5	44.6	1.8
8. 地道でコツコツ型	5.4	44.6	44.6	5.4
9. 何かにつけてよく心配する	3.6	44.6	46.4	5.4
10. 細かいところまで気にする	5.4	39.3	48.2	7.1
11. 趣味が多い	7.1	35.7	48.3	8.9
12. おしゃれ	1.8	32.1	42.9	23.2
13. 家庭には仕事を持ち込まない	1.8	16.1	39.3	42.8

●担任と子どもたち)))

前節のような56人の教師が担任するクラス
の子どもたちに、担任の先生に関することや
クラスに関することについてたずねたのが、
次の「子ども調査の結果」である。調査対象
となった子どもたちの学年や男女の割合は表
6に示した。

子どもたちと担任教師とのかかわりの実態
をたずねたところ、表7-①のように、子ど
もたちは、先生が「自分の仲よしの友だち」

や「自分が得意な教科」については知っている
だろうと考えており、逆に「家に帰ってか
らのこと」や「自分の悩みについて」はあま
り知らないだろうと答えていることがわかる。
つまり、先生は学校にいるときの自分や、目
に見えているときの自分しか知らないだろう
と答えている。なお、子どもたちが担任の先
生のことをどのくらい知っているかは②に示
した。

表6 調査対象

(%)

4 年	5 年	6 年	男 子	女 子
20.6	38.8	40.6	52.7	47.3

表7-① 担任の先生が知っている自分

(%)

	よく知っていると思う	わりと知っていると思う	あまり知らないと思う	ぜんぜん知らないと思う
1. 仲よしの友だち	26.0	50.8	19.6	3.6
2. 得意な教科	24.7	40.9	27.0	7.4
3. 好きな食べ物	6.0	13.5	50.2	30.3
4. 好きなテレビ番組	5.8	7.9	28.7	57.6
5. 家に帰ってからの過ごし方	5.0	16.0	39.4	39.6
6. 悩み	4.7	11.2	29.0	55.1

表7-② 自分が知っている担任の先生

(%)

	知っている	知らない
1. 先生の下の名前	90.6	9.4
2. 職員室の先生の机の場所	67.2	32.8
3. 先生の家族の人数	43.4	56.6
4. 先生の家はどこ駅で降りるのか	24.9	75.1
5. 先生が小学校の頃、得意だったスポーツ	18.8	81.2
6. 先生の出た大学	6.6	93.4

担任の先生に対するイメージは表8によると、教師としては当然のことと思える内容だが、「何か決めるとき、話し合いを大切にす

ると、厳しく叱る」「先生の言うことを聞かないと、厳しく叱る」のように、厳しく叱る担任イメージを持たれていることも事実である。さらに、「心配ごとは一緒に考えてくれる」「休み時間、外で遊んでくれる」などの授業場面以外での接触の少なさを子どもたちが嘆いているといった結果になっている。

表8 担任の先生のイメージ

(%)

	とてもそう	わりとそう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. 何か決めるとき、話し合いを大切にす	41.4	41.3	13.2	4.1
2. 家で勉強したノートに赤ペンを入れてくれる	35.6	30.6	19.8	14.0
3. 勉強を熱心に教えてくれる	34.1	43.8	17.3	4.8
4. まちがえたとき、素直にあやまる	33.8	41.7	17.5	7.0
5. 授業中、冗談を言って笑わせる	27.4	35.0	23.6	14.0
6. 掃除や係の仕事をさぼると、厳しく叱る	26.9	37.0	30.0	6.1
7. 先生の言うことを聞かないと、厳しく叱る	24.5	36.4	32.6	6.5
8. 宿題をたくさん出す	23.7	25.6	39.1	11.6
9. 忘れ物をすると、厳しく叱る	18.4	28.5	41.0	12.1
10. 算数や国語の授業を運動会などの練習に替えてくれる	17.8	34.8	31.1	16.3
11. 心配ごとは一緒に考えてくれる	15.9	31.8	33.5	18.8
12. 遅刻や時間に厳しい	14.0	22.5	41.1	22.4
13. 給食のとき、子どもの頃の話をしてくれる	6.3	15.6	31.0	47.1
14. 休み時間、外で遊んでくれる	3.3	13.0	30.5	53.2

表9は、実際の接触場面についてたずねたものだが、おしなべてどの項目もその数値が低い。「先生の方からあいさつしてくれたこと」「お手伝いを頼まれたこと」のほかに、「『がんばったね』と言われて、うれしかったこと」「先生からほめられたこと」はわりとあるものの、全体として子どもたちにとって

ネガティブな接触が少ない一方で、「困っていることを相談にのってもらったこと」「休み時間、外で遊んでくれる」などのプラス志向の接触も少なく、教師と子どもの希薄な関係が浮き彫りになっているように思える。

表9 担任の先生との接触

	(%)				
	しょっちゅうある	わりとある	ときどきある	今までに1、2回ある	ぜんぜんない
1. 先生の方からあいさつしてくれたこと	22.1	27.8	23.7	16.1	10.3
2. お手伝いを頼まれたこと	14.1	30.0	32.7	17.2	6.0
3. 厳しく注意されたこと	9.0	10.4	19.9	33.4	27.3
4. いくら手を挙げて、指してもらえなかったこと	7.3	8.4	16.6	23.8	43.9
5. 先生が約束を破ったこと	6.6	6.5	13.9	27.0	46.0
6. 先生から冷たく、無視されたこと	5.6	4.6	8.0	20.1	61.7
7. 「がんばったね」と言われて、うれしかったこと	5.4	20.6	32.0	21.4	20.6
8. 先生からほめられたこと	4.5	22.0	49.3	17.2	7.0
9. 感激するような話を聞いたこと	4.5	8.2	14.9	23.4	49.0
10. 困っていることを相談にのってもらったこと	3.9	7.2	12.8	21.7	54.4
11. やりたくない係の仕事をさせられたこと	3.9	5.3	6.9	18.0	65.9
12. 先生から傷つくようなことを言われたこと	3.9	4.1	7.3	15.5	69.2
13. 放課後、わからないところを一生懸命教えてもらったこと	3.7	7.2	12.7	17.1	59.3
14. 休み時間、外で遊んでくれる	2.7	5.6	10.4	15.5	65.8
15. 休日、先生とみんなで遊びに行ったこと	0.6	0.6	1.3	4.3	93.2

しかし、教師の影響は子どもたちに少なからずあるのも事実で、次の表10によると、今の担任の先生になってから、「休み時間、外

で遊ぶようになった」「クラスの友だちみんなが仲よくなった」「本を読むようになった」「学校に行くのが楽しみになった」と感じて

表10 今の担任の先生になって自分が変わったと思うこと

(%)

	とても そう思う	わりと そう思う	どちらでも ない	あまりそう 思わない	ぜんぜんそ う思わない
1. 休み時間、外で遊ぶようになった	26.2	19.0	21.2	14.2	19.4
2. クラスの友だちみんなが仲よくなった	25.9	29.0	22.5	12.4	10.2
3. 本を読むようになった	20.4	23.2	22.7	13.9	19.8
4. 学校に行くのが楽しみになった	19.5	24.5	26.8	12.3	16.9
5. 苦手だった鉄棒や跳び箱ができるようになった	15.3	19.5	24.4	16.4	24.4
6. 嫌いだった勉強が好きになった	14.8	26.9	22.6	15.3	20.4
7. 忘れ物をしなくなった	14.6	25.0	24.9	17.9	17.6
8. 時間を守るようになった	12.5	27.6	31.2	15.8	12.9
9. 家でよく勉強するようになった	11.5	26.3	24.6	16.5	21.1
10. 食べ物に好き嫌いがなくなった	10.5	13.2	26.4	18.1	31.8
11. 授業中、おしゃべりするようになった	8.8	16.8	26.4	21.2	26.8
12. 好きだった勉強が嫌いになった	5.5	5.9	22.3	13.1	53.2
13. 先生が嫌いになった	5.3	6.3	18.6	14.2	55.6
14. 勉強がわからなくなった	3.6	7.8	22.0	19.9	46.7

いる子どもがほぼ半数を占める。

表11は、子どもたちからの先生への信頼度、
表12並びに表13、表14は、子どもたちが考え

るクラスの実態についてまとめている。これらの内容は、担任教師のかかわり方により、その割合が大きく変わってくるものと思われる

表11 先生への信頼

	(%)			
	とても頼りになる	わりと頼りになる	あまり頼りにならない	ぜんぜん頼りにならない
1. 勉強の仕方がわからないとき	31.1	49.9	13.9	5.1
2. 友だちにいじめられたとき	25.2	32.5	23.8	18.5
3. クラスの友だちとけんかしたとき	22.5	31.9	23.1	22.5
4. 学校に行きたくなくなったとき	16.5	32.1	27.9	23.5
5. 中学受験など、進路を相談したいとき	13.6	32.5	27.2	26.7
6. 成績が下がってしまったとき	11.7	41.6	32.9	13.8
7. 家出したくなるほど、親に吐かれたとき	10.1	19.2	27.5	43.2
8. 好きな男の子(女の子)ができたとき	3.7	10.5	24.7	61.1

表12 クラスについて思うこと

	(%)				
	とてもそう思う	わりとそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	ぜんぜんそう思わない
1. 休み時間、クラスみんなが遊んでいたら、その仲間に入る人が多い	28.8	40.1	19.2	7.9	4.0
2. グループ活動になると、いつも決まった人がグループになる	26.6	35.4	17.7	11.9	8.4
3. 同じクラスの人がけんかをしていたら、止めに入る人が多い	16.4	28.2	23.8	18.9	12.7
4. 学級活動の話し合いのとき、自分の意見を発表する人が多い	14.4	32.9	23.6	22.5	6.6
5. 行事のとき、いろいろな人がクラスの代表になる	13.3	27.3	27.4	22.9	9.1
6. 係の仕事などをするとき、係以外の人も協力してくれる	10.7	27.2	28.7	19.4	14.0

る。

次に、教師調査の節でも若干ふれたが、子どもたちによる担任の先生の評価を表15に示した。これによると、「今の担任の先生になってよかったと思いますか」という質問に対して、「とてもよかった」と答えた子は41%となっており、「わりとよかった」と感じ

ている子どもまでを含めると、7割近くの子どもたちが今の担任の先生について好意的な評価をしているといえる。しかし、その逆に「あまりよくなかった」や「ぜんぜんよくなかった」と思っている子どもも15%近くに達していることについて注目しないわけにはいかない。1クラスの子どもの人数をおよそ30

表13 クラスの様子

	(%)				
	とても そう思う	わりと そう思う	どちらでも ない	あまりそう 思わない	ぜんぜんそ う思わない
1. 授業終わりのチャイムが鳴ると、すぐ本やノートを片づける人が多い	30.2	31.9	14.5	14.5	8.9
2. 忘れ物をしたとき、表やカードに記入する	27.4	13.8	12.7	8.4	37.7
3. 授業中、となりの子や後ろの子と無駄話をする人が多い	26.1	37.4	20.7	12.1	3.7
4. 失敗すると「エー」と言ったり、笑ったりする人がいるので発表しにくい	24.6	29.8	20.9	12.2	12.5
5. 授業中、手を挙げずに答える人が多い	21.9	38.0	18.1	14.2	7.8
6. 体育のとき、先生が来るまでに準備運動をすませておく	17.9	23.0	17.3	20.3	21.5
7. 先生に「静かにしなさい」と注意されたら、すぐ静かになる	17.7	24.1	16.8	26.2	15.2
8. 休み時間、教室でぶらぶらしている人が多い	14.5	27.7	22.8	23.6	11.4
9. 休み時間、先生のまわりにすぐ子どもが集まる	13.4	19.0	21.9	20.7	25.0
10. 係の仕事をしっかりする人が多い	12.5	27.3	28.9	20.7	10.6
11. 先生がいなくても、掃除を熱心にする人が多い	8.4	18.5	26.1	26.7	20.3
12. 昼休み、「先生も一緒に遊ぼう」とさそう人が多い	4.7	7.0	16.7	18.6	53.0
13. チャイムが鳴って先生が来るまで、次の勉強の教科書を自分で読んでいる人が多い	3.0	8.8	12.8	31.5	43.9

人強としても、そのうちの15%である5名の子どもたちは、このままでは担任の先生に満足できないまま1年間、あるいは、運が悪ければ持ち上がりで2年間、生活していかなくてはならない可能性を秘めていることになる。

今回の調査では、この「今の担任の先生になってよかったと思いますか」という質問項

目を「子どもたちの担任への満足度」という尺度とし、担任への満足度の高い学級と満足度の低い学級を比較しながら、学級集団の充足についての研究を深めることにした。

表14 他のクラスと比べて

	(%)				
	とても そう思う	わりと そう思う	どちらでも ない	あまりそう 思わない	ぜんぜん 思わない
1. 楽しいクラス	54.1	29.5	8.5	4.3	3.6
2. よく運動するクラス	28.8	30.5	24.8	10.7	5.2
3. 授業中、よく手を挙げるクラス	14.8	26.2	33.8	16.9	8.3
4. 男女の仲がよいクラス	11.6	16.6	26.4	22.0	23.4
5. まとまりがあるクラス	11.3	19.5	33.9	19.1	16.2
6. よく勉強するクラス	8.7	23.4	36.0	20.4	11.5
7. クラスの約束をよく守るクラス	7.7	20.2	33.5	24.9	13.7

表15 今の担任の先生になってよかったか

(%)				
とても よかった	わりと よかった	少し よかった	あまり よくなかった	ぜんぜん よくなかった
40.5	27.9	16.9	7.9	6.8
68.4			14.7	



これからは、本調査に協力していただいた56人の教師のプロフィールを紹介する一方で、子どもたちの「担任への満足度」をクロスさせながら、教師とクラスとの関係について考えていくことにする。

●満足度と担任のプロフィール)))

表16は、子どもたちの担任評価を担任への満足度の高い方から順に並べたものである。表の左端に1とあるのが、「担任への満足度」が56クラス中一番高いことを示しており、以下、満足度が次第に下がり、56番目のクラスの先生が今回の調査で満足度が最も低かったということになる。

では、1番の先生を例にして表の見方を説明しよう。1番の列を横に見ていただきたい。まず、この先生が6年生の担任であり、このクラスの人数は39人であることがわかる。そして、子どもたちの「担任への満足度」は、今の担任の先生になって「とてもよかった」

と「わりとよかった」を合わせて100%と、クラス全員がこの1番の先生に対して満足しているという様子をうかがうことができる。なお、カッコ内の数値は、「とてもよかった」割合であるが、この先生は81.6%の子どもから「とてもよかった」という支持を受けていることになり、支持率としてはかなり高い。また子どもたちの自分のクラスへの満足度は、今のクラスになって「とてもよかった」と「わりとよかった」を合わせて、86.8%となっており、このクラスは、教師も子どもも互いに満足のいく形で毎日を過ごしていることがわかる。

さらに右に見ていくことにする。このような子どもたちを担当しているこの1番の先生は、男性で、30代前半であることがわかる。次の項目、担任期間にある『1.4』は、1年4か月を表している。この調査は、1994年7月に行われているので、この先生は、今のクラスを昨年度、つまり5年生の時から担任し、そのまま持ち上がりで6年生の担任となり、現在にいたっているということになる。さらに、普通を60点としたときの自己評価の採点では、普通より少しよい70点をつけていることがわかる。そして学級経営上は、「まちがいを恐れず、自分の考えを出せるクラス」をモットーに子どもたちに指導していることがわかる。

同様に、1番下、今回の調査で担任の満足度の最も低かった56番の先生についてもみていくと、次のような結果になる。この先生はやはり6年生の担任で、クラスの子どもの数は偶然にも先ほどの1番の先生のクラスと同じ39人である。だが、担任への満足度は「とて

もよかった」と「わりとよかった」を合わせてもわずか13.1%にすぎない。クラスへの満足度にしても46.1%とクラスの半分以上の子どもたちが、自分のクラスに対して何らかの不満を持っているという状況がうかがえる。

このようなクラスの担任である56番の先生は男性で、年齢は30代後半。教職経験も長く、学校内では、中堅からややベテランといった教師になる。担任期間も1年4か月の持ち上がり学級。しかも、自己評価による採点は70点であり、1番の先生の自己採点と同じ点数となっていることには驚いてしまう。しかしこの先生の場合には、教師の自己採点と子どもの担任への満足度に大きな隔たりがみられる。学級経営では、「クラスの友だちを大切に、温かみのあるクラス」を目指しているようであるから、直接ここからは、子どもからの満足度が13%しかないというような印象はみられず、1番の先生との差がなぜこのように開いてしまったのか、その根拠となるものを見いだすことはできない。

表16 クラスの満足度

	子 ども				教 師				
	学年	クラス 人数	担任への 満足度(%)	クラスへの 満足度(%)	性別	年齢	担任 期間	自己 採点	学級経営で力を入れている こと(自由記述の中から)
1	6	39	100.0 (81.6)	86.8 (65.8)	男	30代 前半	1.4	70	まちがいを恐れず、自分の考 えを出せるクラス。
2	5	20	100.0 (85.0)	85.0 (65.0)	男	30代 前半	0.4	60	子ども相互の関係作り。
3	6	29	96.6 (69.0)	93.1 (72.4)	男	30代 後半	1.4	90	他を認める心の育成と指導法 の研究。
4	5	25	96.0 (68.0)	92.0 (72.0)	男	30代 後半	0.4	60	仲よく音楽を通してのまとま りのあるクラス。
5	6	37	94.1 (64.7)	66.6 (33.3)	男	30代 後半	1.4	50	問題傾向のある児童(1人) の指導。
6	5	31	93.3 (70.0)	83.9 (58.1)	女	40代 前半	0.4	90	心を豊かに楽しく充実した学 級。物事に一生懸命まじめに 取り組む子を育てる。
7	5	30	93.3 (63.3)	76.6 (53.3)	女	40代 前半	0.4	70	
8	4	28	92.8 (71.4)	82.1 (60.7)	女	40代 前半	0.4	60	自分のよさを学級の中で生か す。学力を身につける。
9	4	26	91.3 (69.6)	63.7 (36.4)	男	30代 前半	0.4	60	
10	5	32	90.6 (53.1)	93.8 (62.5)	女	30代 後半	0.4	50	個性を伸ばす。クラスを1つ の家族のようにする。
11	4	28	89.3 (50.0)	75.0 (39.3)	女	30代 後半	0.4	70	子ども同士が助け合う明るい クラス、個性の伸張。
12	4	31	87.1 (74.2)	87.1 (64.5)	女	30代 前半	1.4	60	男女仲よく自主的な活動と学 習。
13	6	27	85.2 (55.6)	92.6 (55.6)	男	30代 前半	1.4	70	積極的に活動。体力学力の向 上と思いやり。
14	6	31	83.8 (54.8)	83.9 (58.1)	男	20代 後半	1.4	70	楽しいクラス。
15	5	24	83.3 (50.0)	66.7 (45.8)	女	40代 前半	0.4	70	学校に来るのが楽しくなるよ うな友だち関係があるクラス。
16	4	39	81.6 (55.3)	84.6 (59.0)	男	30代 後半	1.4	80	お互いを認め伸びようとする 子どもの育成。
17	5	33	81.3 (50.0)	63.6 (33.3)	女	40代 後半	0.4	80	お互いのよさを認め、思いや りのあるよい人間関係。
18	6	31	80.7 (61.3)	70.9 (41.9)	男	30代 後半	0.4	80	主体的に学習に取り組めるよ うな学習習慣を身につける。
19	6	36	80.6 (41.7)	80.6 (50.0)	女	40代 前半	1.4	80	心を通じられるクラス。コミ ュニケーションを大切にする。

(次ページへ)

	子 ども				教 師				
	学年	クラス 人数	担任への 満足度(%)	クラスへの 満足度(%)	性別	年齢	担任 期間	自己 採点	学級経営で力を入れている こと(自由記述の中から)
20	5	29	79.3 (41.4)	75.8 (31.0)	男	40代 前半	0.4	80	自分で考え行動できる力をつける。
21	6	28	78.6 (42.9)	82.1 (46.4)	女	20代 後半	1.4	70	友だちを温かい目でみられ、どの子にもよい点があることを認めるクラス。
22	5	36	77.8 (50.0)	65.7 (34.3)	男	30代 前半	0.4	60	助け合うクラス、一人一人を認めるクラス。
23	5	31	77.4 (35.5)	61.3 (41.9)	男	20代 後半	0.4	60	自分の可能性を信じて何事にも一生懸命。
24	4	39	76.9 (48.7)	79.0 (55.3)	男	40代 前半	1.4	70	いじめをなくす。
25	4	29	75.9 (34.5)	69.0 (24.1)	男	30代 後半	0.4	30 以下	児童相互の人間関係と信頼関係。基礎基本の徹底した修得。
26	5	34	75.8 (45.5)	84.8 (60.6)	男	20代 後半	0.4	60	主体的に考え行動する。個性の発揮や自信を持たせる。
27	4	28	75.0 (50.0)	85.7 (64.3)	女	30代 前半	1.4	70	グループ活動を通した子ども自身の活動を。
28	6	36	75.0 (41.7)	77.8 (47.2)	女	30代 前半	1.4	60	個々の尊重。
29	5	40	75.0 (45.0)	77.5 (45.0)	男	20代 後半	0.4	50	主体的に活動する。相手の立場に立った思いやり、クラス全体の協力・けじめ。
30	5	30	74.1 (51.9)	82.1 (35.7)	男	30代 前半	0.4	80	児童理解と学習指導。
31	5	30	73.3 (56.7)	80.0 (53.3)	女	50代 前半	0.4	80	明るく楽しいクラス、仕事に責任を持つ。よく考えて自分で学習できる。
32	4	30	73.3 (30.0)	73.3 (33.3)	女	20代 後半	0.4	70	
33	5	37	72.7 (45.5)	80.0 (20.0)	女	40代 前半	0.4	60	
34	5	29	72.4 (62.1)	58.6 (27.6)	男	40代 前半	0.4	70	自分自身を素直に表現し、周囲を温かく受け入れる。
35	5	30	70.0 (36.7)	63.4 (46.7)	男	20代 後半	0.4	60	全員が何等かの形でつながっているクラス。
36	4	33	69.7 (30.3)	66.7 (36.4)	男	30代 後半	1.4	70	協力、思いやり。
37	5	35	67.7 (32.4)	54.3 (22.9)	女	40代 後半	0.4	50	子ども同士のつながりを大切にするクラス。自主的に判断できる子の育成。
38	4	27	66.6 (37.0)	66.6 (33.3)	女	40代 後半	0.4	70	人に対する思いやりと自分を大切にすること。協力する楽しさを味わわせたい。

(次ページへ)

	子 ども				教 師				
	学年	クラス 人数	担任への 満足度(%)	クラスへの 満足度(%)	性別	年齢	担任 期間	自己 採点	学級経営で力を入れている こと(自由記述の中から)
39	6	30	63.3 (13.3)	60.0 (13.3)	男	40代 前半	1.4	60	子どもが主体的に活動できる 場や方法を設定。
40	6	19	63.1 (52.6)	73.7 (52.6)	男	40代 前半	0.4	60	個性や能力が発揮でき、思い やりを大切にするクラス。
41	5	36	58.4 (16.7)	63.9 (25.0)	女	30代 後半	0.4	60	お互いの力を認め、自分のよ さを生かせる学級。
42	4	28	57.1 (35.7)	64.2 (32.1)	女	40代 後半	0.4	80	自分自身を好きになるような クラス。
43	6	32	53.1 (25.0)	81.3 (43.8)	男	30代 前半	1.4	60	高学年の自覚と心のふれ合い を大切にした集団作り。
44	6	20	50.0 (15.0)	75.0 (25.0)	女	30代 前半	1.4	60	自己学習力をつける。個性の 伸張と自分のよさの発見と他 人を認める。
45	6	38	50.0 (26.3)	60.5 (42.1)	女	40代 後半	0.4	60	6年生の女子の心の動き、グ ループ間の人間関係の理解。
46	5	29	48.2 (10.3)	51.7 (13.8)	男	30代 後半	0.4	60	一人一人の心の成長。
47	6	30	46.7 (10.0)	43.4 (16.7)	女	40代 前半	1.4	70	お互いに認め合う友だち関係 作り。
48	5	40	45.0 (27.5)	65.0 (35.0)	男	40代 前半	0.4	70	明るく生き生きと人と接する ことができる。自分で考え判 断して主体的に活動できる。
49	6	38	42.1 (18.4)	60.5 (23.7)	男	30代 前半	0.4	60	自主性と主体性と協力。
50	6	36	41.2 (14.5)	61.8 (26.5)	女	30代 後半	1.4	70	仲よく明るい人間関係。自他 ともに命の大切さを知る。
51	5	29	37.9 (20.7)	44.8 (24.1)	男	30代 前半	0.4	60	けじめを尊重。
52	6	39	35.9 (5.1)	56.4 (15.4)	男	30代 後半	0.4	40	子どもの信頼関係を築くこと。
53	6	40	35.0 (20.0)	47.5 (25.0)	男	30代 後半	1.4	80	誠実な心、自ら行動する力、 思いやり。
54	6	35	29.4 (11.8)	55.9 (32.4)	男	30代 前半	1.4	70	仲よく、けじめがあり、言い たいことが言えるクラス。
55	6	31	15.6 (0.0)	53.2 (31.3)	男	30代 前半	1.4	40	一人一人の違いとよいところ を見つけられる人になること。
56	6	39	13.1 (2.6)	46.1 (17.9)	男	30代 後半	1.4	70	クラスの友だちを大切にする、 温かみのあるクラス。

担任・クラスへの満足度は「とても」+「わりと」よかった割合、()内は「とてもよかった」割合

●担任への満足度とその差)))

表16の見方がおわかりいただけたでしょうか。ここからは、少し大まかにこの表を捉えていくことにしたい。まず、担任への満足度が高いクラスと低いクラスとでは、どこにどんな差がみられるのかをみていく。1番から10番までの10クラスが「満足度90%以上のクラス」、46番から56番までの11クラスが「満足度50%未満のクラス」になっていることから、両者を比較しながら検討を加えることにする。

クラスの子どもの人数に関していえば、満足度の高いクラスでは約30人であるのに対し満足度の低いクラスでは35人となっており、あえて両者の差を見いだそうとするとこのあたりをあげることができるが、それ以外は、

あまり差を見つけることはできないようだ。満足度が高いクラスをみていくと、比較的男性の先生への満足度が高いようにも思えるが、満足度の低いクラスにも男性の先生が多く見られるので、担任の先生の性別には、あまり関係がないようだ。また、年齢は、どちらの群も30代が多く占めており、年齢も満足度を規定する要因とは言い切れない。

表17は、表16をもとに学年ごとに平均値を出して、処理した数値である。担任への満足度は、4年生では78%、5年生では75%、6年生60%と、学年が上がるにしたがって低くなっていることがわかる。また、担任の先生の性別による平均値については表18に示した。

表17 クラス別満足度 × 担当学年

		子ども			教師			
		クラス人数	担任への満足度(%)	クラスへの満足度(%)	年齢	経験年数	担任期間	自己採点
担当学年	4年	30.5	78.1	74.8	39.8	17.2	0.82	65.8
	5年	31.4	74.7	71.4	37.9	14.8	0.40	65.5
	6年	32.8	59.7	68.6	36.0	12.8	1.17	65.4

表18 クラス別満足度 × 担任の性

		子ども			教師			
		クラス人数	担任への満足度(%)	クラスへの満足度(%)	年齢	経験年数	担任期間	自己採点
担任の性	男	32.3	64.8	69.7	34.9	11.2	0.82	63.9
	女	30.9	72.9	73.0	41.4	19.3	0.75	67.8

●満足度を規定するもの)))

次に、いままで述べてきた、「担任への満足度」を引き続きキーワードとしながら、今度は子どものデータとともに比較・処理をした。

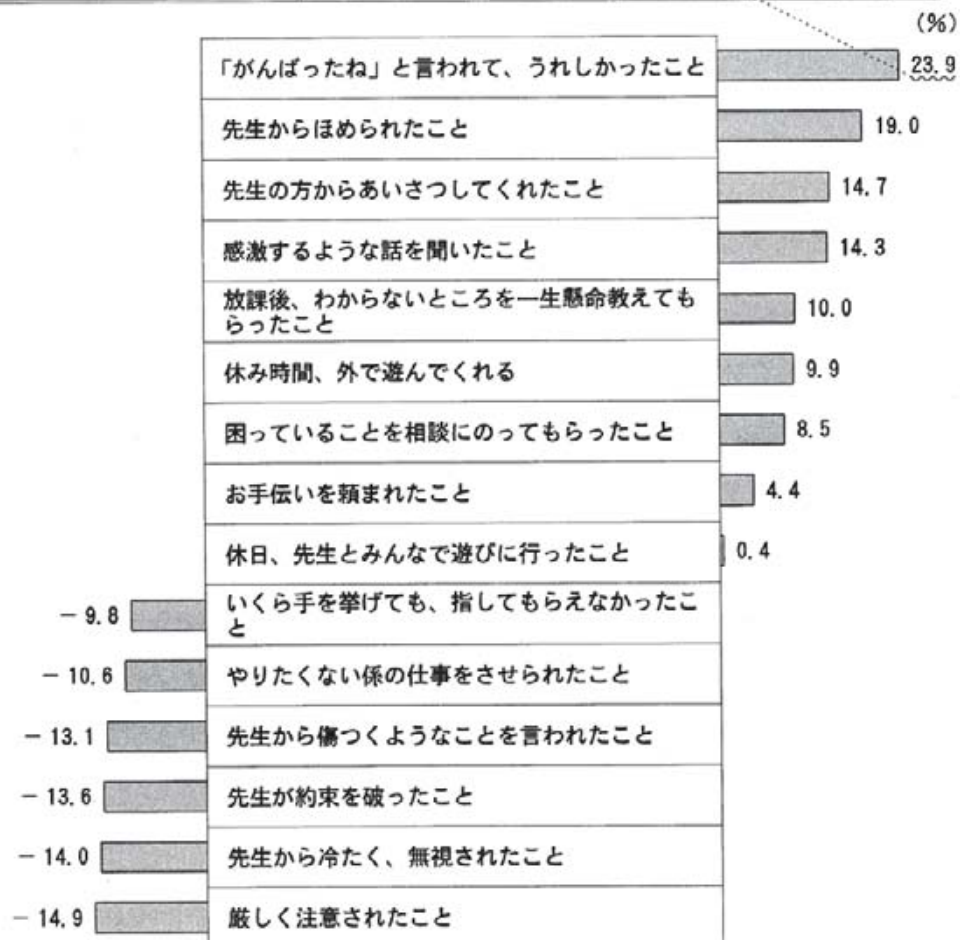
担任への満足度は先にも詳しく述べた通り、満足度が最も高い学級は100%、つまりクラ

スの全員が担任の先生に満足していると答えている一方で、満足度の最も低い学級は満足している子どもが15%にも満たないという状況になっている。教師による子どもたちの学校生活への影響がないことは考えられないので、満足度の違う両者には必然的に差が表

図1 担任の先生との接触 × 担任への満足度

(『担任への満足度90%以上のクラス』 - 『担任への満足度50%未満のクラス』)

*先生から「がんばったね」と言われて、うれしかったこと	『担任への満足度90%以上のクラス』 - 『担任への満足度50%未満のクラス』
「しょっちゅう」+「わりと」ある割合	37.5% - 13.6% = 23.9%



「しょっちゅう」+「わりと」ある割合

れてくるはずである。

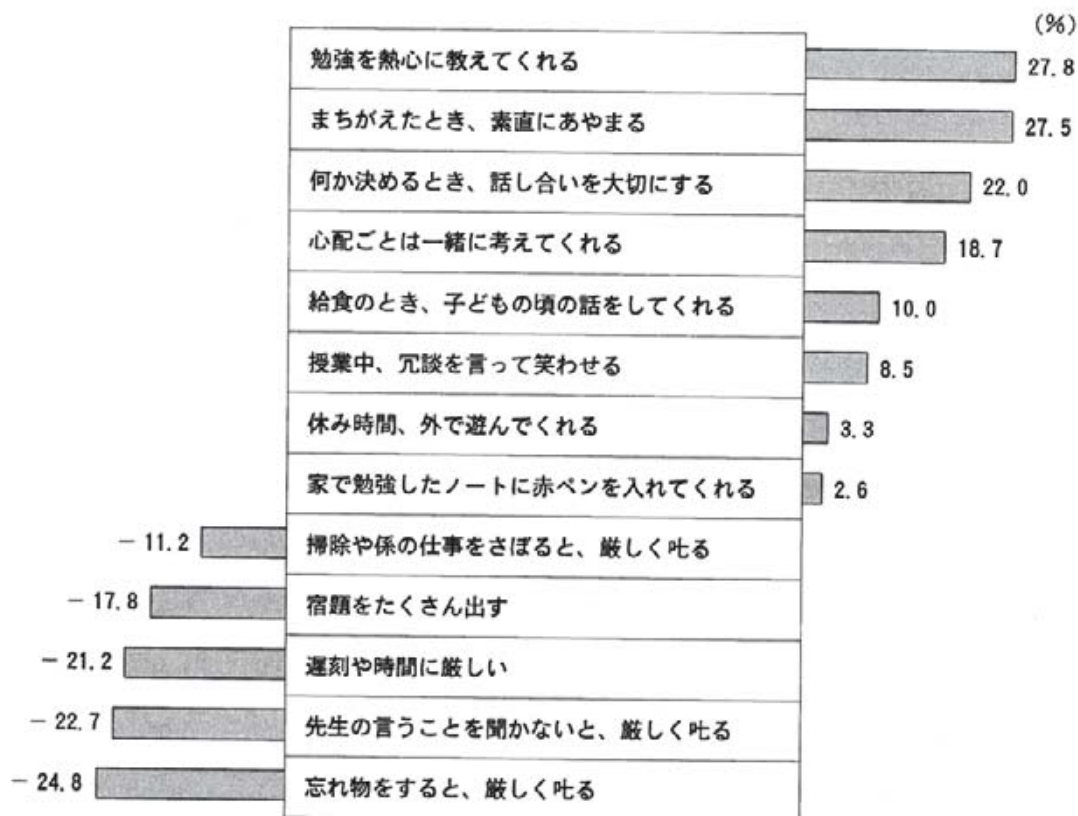
そこで、満足度を規定する要因を探るため図1の二重棒の中に示したように、先生と子どもたちとの接触度を比較してみた。図1は、先生から『がんばったね』と言われて、うれしかったことが「しょっちゅうある」「わりとある」と答えた子どもが「担任への満足度が90%以上のクラス」では37.5%、「満足度が50%未満のクラス」では13.6%で、その差が23.9%というように処理していった結果を示したものである。このような数値を比較していくと、先生から『がんばったね』と言

われて、うれしかったこと」、次に「先生からほめられたこと」「先生の方からあいさつしてくれたこと」が満足度の高いクラスに多くみられる特徴である。逆に満足度の低いクラスにみられる特徴としてあげられるのは、図の下の方の「厳しく注意されたこと」や「先生から冷たく、無視されたこと」となっている。

同様に、図2をみていくと、満足度の高いクラスの先生は「勉強を熱心に教えてくれる」イメージを子どもたちに持たれており、満足度の低いクラスの先生は「厳しい」「叱

図2 担任の教師像 × 担任への満足度

(『担任への満足度90%以上のクラス』－『担任への満足度50%未満のクラス』)



「とてもそう」の割合

る」といったイメージを子どもたちに持たれてしまっているようだ。このように先生との接触の度合いや先生に対するイメージの影響もあって、担任への信頼度は図3にあるように両者にかかなりの開きができてしまっている。

図4では、今の担任の先生になって自分がどう変わったか、自分自身の変化をみている。担任の先生への満足度が高いと、「クラスの友だちみんなが仲よくなったり」「学校に行くのがとても楽しみになったり」とポジティブな変化に影響をしているようだ。担任の先生への満足度が低いと、「先生が嫌いになる」ばかりでなく、「勉強が嫌いになったり、できなくなったりする」ネガティブな変化を引き起こす傾向が強くなっている。そして、

それらの結果、図5のようにクラスイメージまでもが担任への満足度によって大きく影響されるということがいえそうだ。こうして、担任の先生への満足度が自分のクラスイメージをよくも悪くもするということが、さらに図6にあるような「学校に来るのが楽しみか」についての意識の差にも表れてくるということは、1日のうちの大半近くを学校で過ごして生活していく子どもたちにとって、どんな先生のクラスになるのか、どんな担任の先生なのかは、たいへん重要な問題であると言わざるを得ないのではないかと思われる。

次の章では、満足度の上位群に属するクラスと下位群に属するクラスをピックアップして、さらに検討を続けていくことにする。

図3 担任への信頼度 × 担任への満足度

高=担任への満足度90%以上のクラス 低=担任への満足度50%未満のクラス (%)

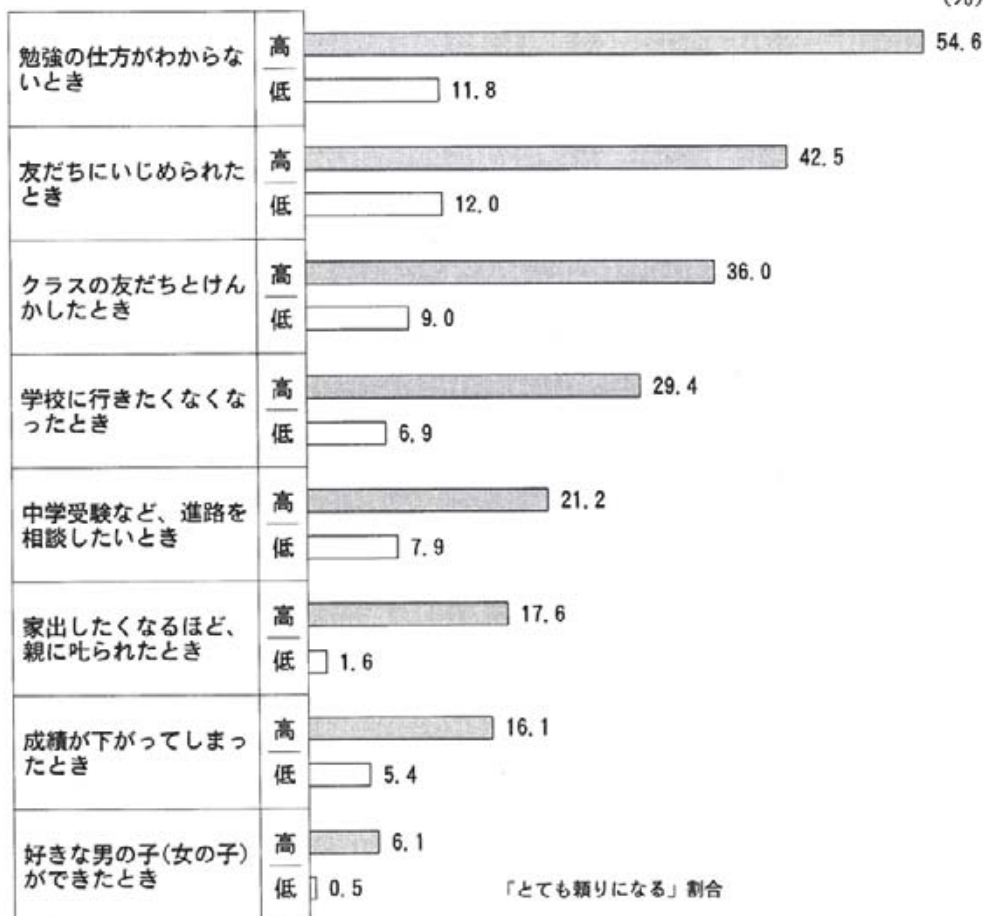


図4 今の担任の先生になってどう変わったか × 担任への満足度

高=担任への満足度90%以上のクラス 低=担任への満足度50%未満のクラス

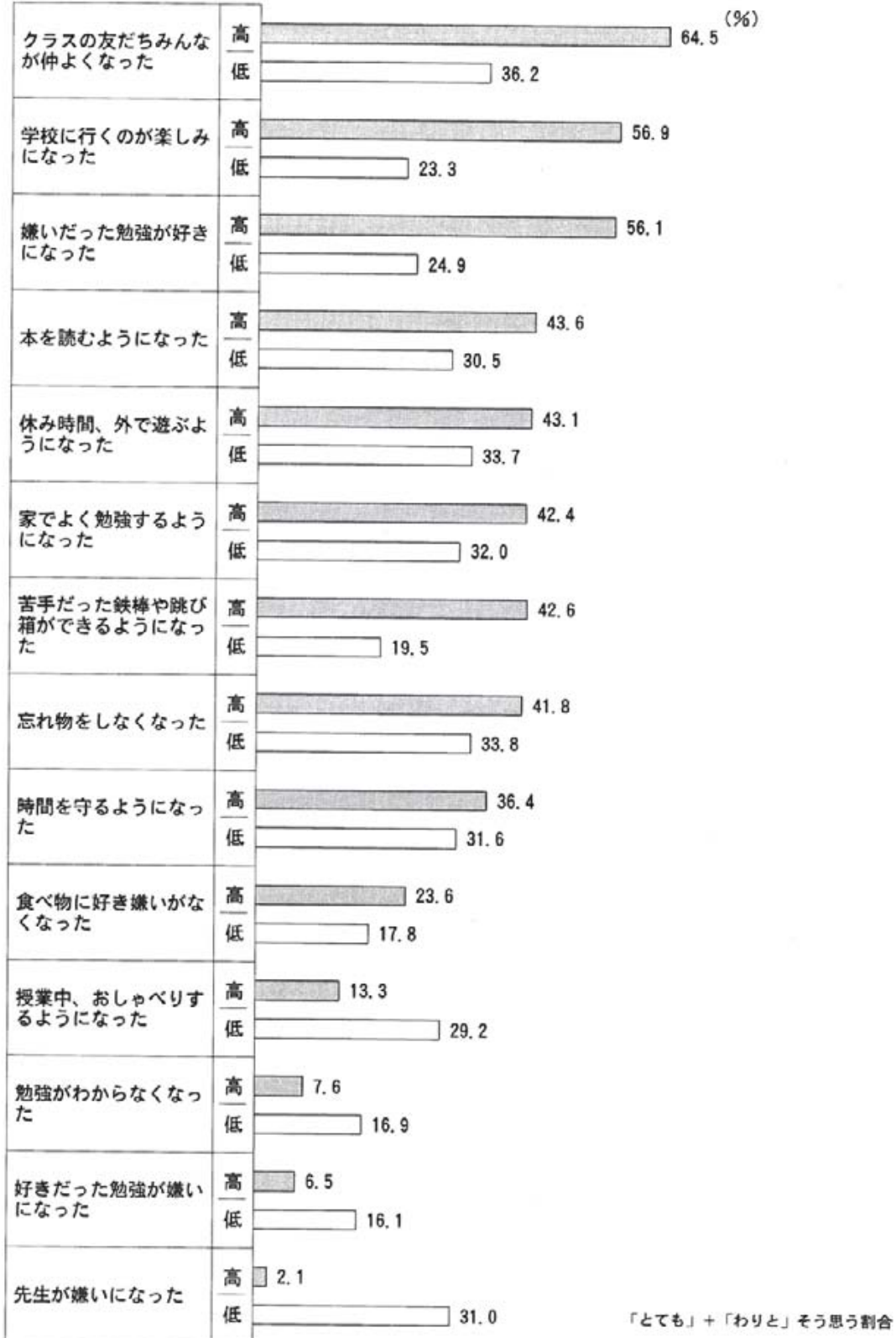


図5 クラスイメージ × 担任への満足度

高=担任への満足度90%以上のクラス 低=担任への満足度50%未満のクラス

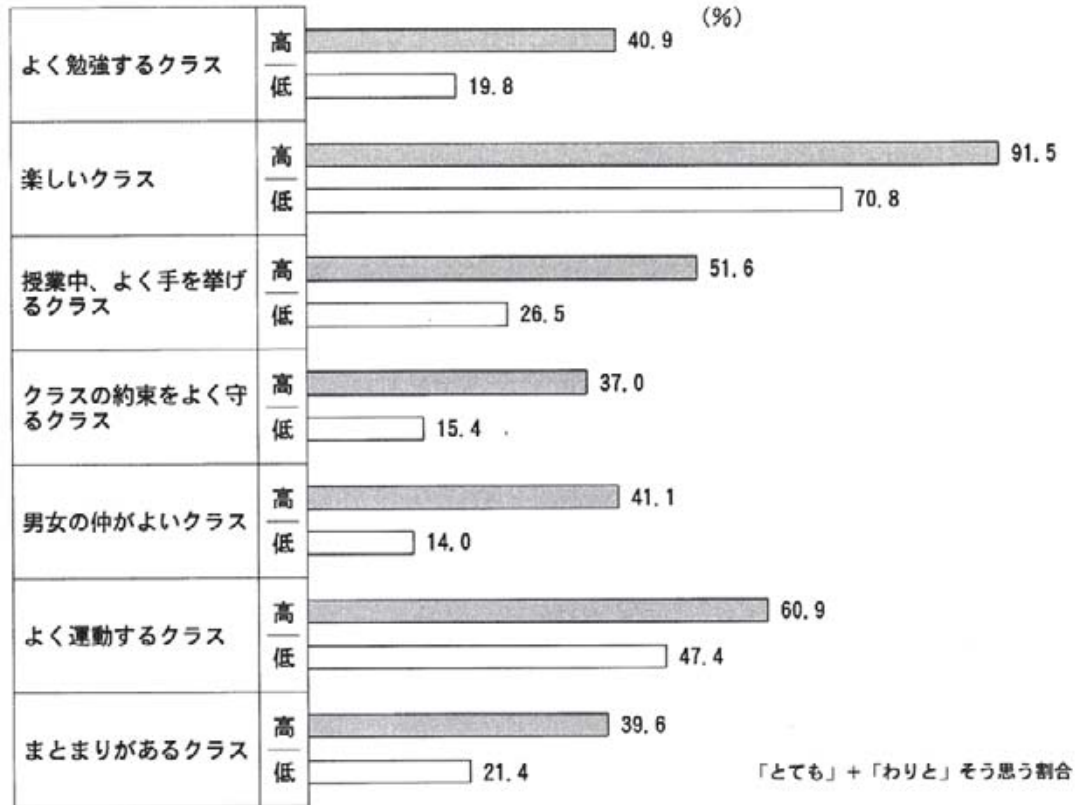
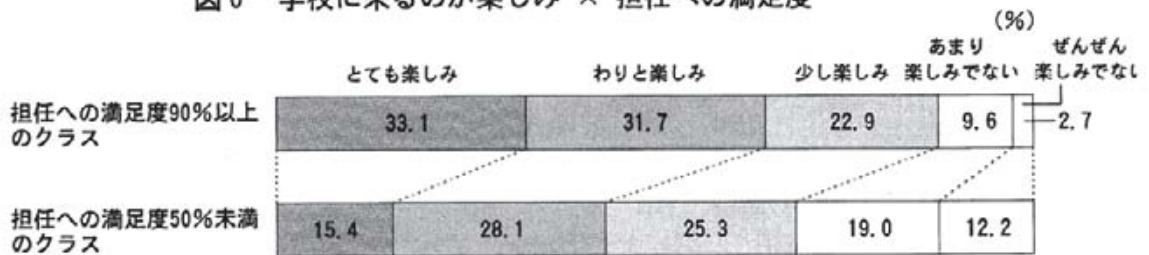


図6 学校に来るのが楽しみ × 担任への満足度





ここでは、担任教師への満足度がクラスの間関係や担任への評価、学習への姿勢、学校生活にどのような影響を与えるのか、満足度の高い群と低い群をピックアップし比較・分析することで、両群の差異を探っていきたい。

●教師のプロフィール)))

表19は、先に紹介した学級担任への満足度を示す一覧表(表16)の中から、6年生の持ち上がり学級の担任のみ17名をチョイスし、学級担任への満足度の高い上位3名と下位3名のプロフィールを紹介したものである。

満足度の高い3名は、パーセンテージの高い順に、A、B、Cと表記しており、以後、上位群と呼ぶことにする。また、X、Y、Zの3名も同様に表記しており、以後、下位群として資料を紹介していくことにしよう。

データの紹介を6年生の持ち上がり学級に限定したのは、調査時期が1994年7月初めのため、データの信憑性を考慮し、4年、5年

および6年でクラス替えのあった学級は省略させていただいた結果である。

さて表19によると、表中の一番上に示した上位群のA先生は、39人の子どもたちから100%の支持を受けている30代前半の男性教師で、4年制の教育系大学を卒業している。「まがいを恐れず、自分の考えを出せるクラス」をモットーにし、クラスへの満足度も87%と、かなり高いことがわかる。

また、表中の一番下に示した下位群のZ先生は、30代後半の男性教師で、4年制の教育系大学を卒業し、「クラスの友だちを大切に、温かみのあるクラス」作りを目指して

いる。しかし、子どもたちの先生に対する満足度は13%で、39人中わずか5人しか先生を支持しておらず、残りの34人は先生を否定的にみていることがわかる。同時にクラスへの満足度も46%と低く、今回調査対象の56クラ

ス中で下から3番目にランクされている。

さてこれからは、このような上位群3名と下位群3名の教師を多くの項目で比較分析していき、各群の共通点や相違点を見いだしていくことにする。

表19 担任の先生のプロフィール

(持ち上がり学級6年の担任クラスの担任に対する満足度：上位3名と下位3名との比較)

	担任番号	一覧表での順位	担任への満足度	クラスへの満足度	担任の性別	年齢	出身大学の種別	学級経営の方針 (文章記述)	クラス人数
担任満足度 (上位群)	A	1位	100.0%	86.8%	男	30代前半	4年制教育系大学	まちがいを恐れず、自分の考えを出せるクラス	39人
	B	3位	96.6%	93.1%	男	30代後半	4年制教育系大学	他を認める心の育成と指導法の研究	29人
	C	5位	94.1%	66.6%	男	30代後半	4年制普通の大学	問題傾向のある児童(1人)の指導	37人
担任満足度 (下位群)	X	54位	29.4%	55.9%	男	30代前半	4年制教育系大学	仲よく、けじめがあり、言いたいことが言えるクラス	35人
	Y	55位	15.6%	53.2%	男	30代前半	4年制普通の大学	一人一人の違いとよいところを見つけられる人になること	31人
	Z	56位	13.1%	46.1%	男	30代後半	4年制教育系大学	クラスの友だちを大切にす る、温かみのあるクラス	39人

●教師の意識)))

表20は、各担任教師の学級経営の方針やクラスの評価、自己採点などを一覧表にしたものである。まず特徴的なのは、上位群のB先生で、「クラスの楽しさ」「男女の仲のよさ」「学習の前向きさ」「クラスのまとまり」「クラス内のモラルの高さ」など、多くの項目で自分のクラスを高く評価している。そのため自己採点も90点と一番高く、学級経営も◎の印がつくほどうまくいっていると答えている。

また、同じ上位群のC先生は、子どもたちから高い評価を得ているにもかかわらず、自己採点が50点と低く、学級経営もあまりうまくいっていないと判断している。そのためクラス評価の項目でも、「あまりうまくいっていない」を示す△の印が目立っている。これはクラスに1人の問題児を抱えているため、その子を中心にクラスが今ひとつまとまりきれないということが要因であろうか。

さて次に、下位群の3名に目を向けてみよう。下位群の中で最も特徴的なのは、真ん中のY先生で、自己採点が40点と、56人中で下から2番目に位置している。クラスの評価も△の印が多くネガティブである。学級経営も「ぜんぜんうまくいっていない」と判断している。またクラスの子どもの自分への採点は50点としているが、担任への満足度が16%であったことを考えると、本来は30～40点でも甘い点数といえそうである。

また、最下位のZ先生は、自己採点が70点、クラスの子どもたちは平均点の60点を自分につけるだろうと判断しており、しかもクラス評価が学級経営の項目にもポジティブな○や◎の印が並んでいることがわかる。子どもたちの評価と先生との認識とに大きな開きがみられる。

ともあれ、この表をながめてみると、全体としてやや上位群がポジティブに評価しているものの、下位群との比較では決め手となる差異をみつけだすことはむずかしく、教師自らの評価はあまりあてにならないようである。

ではさらに、自分はどんなタイプの教師であるかをたずねた結果(表21)をみてほしい。

上位群と下位群の差異の大きい項目を比較してみると、上位群の先生の特徴は、「子どもの気持ちをよくわかってくれる」「子どもと一緒にいるのが楽しい」などの項目で、下位群の先生は、「勉強に厳しい」や「宿題をたくさん出す」などの項目で差がはっきりと表れている。全体としてみれば、上位群の先生は下位群の先生に比べて、◎や○の印が多く、わりとポジティブな自己評価をしていることがわかる。

しかし、上位群と下位群との比較では、あまり差がはっきり表れていない。そこで次に一層差異のはっきりわかる子ども調査の結果から分析を続けていくことにする。

表20 学級経営の方針と受け持ちのクラスの特徴および自己採点

		上位群			下位群		
		A	B	C	X	Y	Z
学級経営の方針	1. 休み時間などに子どもと一緒に遊ぶ	△	△	○	×	△	○
	2. 厳しく決まりを守らせている	○	◎	△	○	○	○
	3. どの子の学力も伸ばそうとしている	○	◎	○	○	○	○
	4. 子どもの自主性にかなり任せている	△	○	○	○	○	◎
	5. 休日でも子どものことが気になる	○	○	△	△	○	○
クラスの特徴	6. 笑いのある楽しいクラス	○	◎	△	○	△	◎
	7. 男女仲のよいクラス	△	◎	△	○	△	○
	8. よく勉強するクラス	△	◎	△	△	△	○
	9. 全員のまとまりのあるクラス	△	◎	△	△	△	○
	10. ルールの守られているクラス	△	◎	△	△	△	△
	11. 授業中に挙手の多いクラス	×	○	△	△	△	△
自己採点	12. 自分の教師ぶりの自己採点	70点	90点	50点	70点	40点	70点
	13. クラスの子どもがつけると思う自分への採点	70点	80点	60点	70点	50点	60点
	14. 学級経営はうまくいっているか	○	◎	△	△	×	△

◎いつも(とても)そう ○わりとそう △少しそうとあまりそうでない ×ぜんぜんそうでない *60点をふつうとして

表21 自分はどんなタイプの教師か
 (クラスの子どもの見た教師像の予測と教師自身での評価)

		上位群			下位群		
		A	B	C	X	Y	Z
クラスの子どもからどんな教師と思われるか	1. おもしろい先生	◎	○	○	○	×	◎
	2. 子どもを気持ちよくわかってくれる先生	○	○	○	○	△	△
	3. 決まりを徹底する先生	○	◎	△	○	○	○
	4. 宿題をたくさん出す先生	×	△	△	○	○	△
	5. 勉強に厳しい先生	△	○	△	○	○	○
	6. 出張が多く忙しい先生	○	○	○	○	○	△
	7. 教え方がうまい先生	○	◎	△	○	△	△
自分はどんなタイプの教師か	8. 明るく朗らか	○	○	○	○	△	○
	9. 子どもと一緒にいるのが楽しい	○	◎	○	△	△	○
	10. 人から頼られる方	◎	○	△	○	○	△
	11. スポーツが得意	○	△	△	○	○	×
	12. 細かいところまで気にする	○	○	△	△	○	△
	13. すぐに行動に移す方	◎	△	○	○	○	△
	14. 趣味が多い	△	○	○	○	△	△

◎とてもそう ○わりとそう △あまりそうでない ×ぜんぜんそうでない

●子どもたちの思い)))

まず表22には、今回の満足度に関する調査の「キー」になった担任への満足度の数値を再度載せてある。表中に満足度100%のA学級と、13%のZ学級が存在すること自体が驚きであり、しかも表23にある、「今の担任の

先生になってよくなかった」と思う割合についても上位群が平均1%であるのに、下位群の平均は58%にも及んでいる。特に、Z学級では、半分にあたる子どもたちが、「今の担任の先生になって、ぜんぜんよくなかった」

表22 今の担任の先生になってよかったと思う

(%)

上位群				下位群			
A	B	C	平均	X	Y	Z	平均
100.0	96.6	94.1	96.9	29.4	15.6	13.1	19.4
(81.6)	(69.0)	(64.7)	(71.8)	(11.8)	(0.0)	(2.6)	(4.8)

「とても」+「わりと」よかった割合、()内は「とてもよかった」割合
 ○は各群の3名の数値がすべて他の群の3名より高い場合(以下同)

表23 今の担任の先生になってよくなかったと思う

(%)

上位群				下位群			
A	B	C	平均	X	Y	Z	平均
0.0	0.0	2.9	1.0	44.1	62.5	68.4	58.3
(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(26.5)	(25.0)	(50.0)	(33.8)

「あまり」+「ぜんぜん」よくなかった割合
 ()内は「ぜんぜんよくなかった」割合

と答えている。

次の表24と表25のクラスへの満足度についても、同様な傾向が認められるが、友だち関係が大きく左右するためか、担任への満足度に比べて、おだやかな差にとどまっている。

しかし、上位群と下位群のクラスでは、満足度の平均に30%以上の差が認められることも事実である。

さらに、表26、表27が示すように、上位群のクラスの子は、「先生の家遊びに行きたい」

表24 今のクラスになってよかったと思う

(%)

上位群				下位群			
A	B	C	平均	X	Y	Z	平均
86.8	93.1	66.6	82.2	55.9	53.2	46.1	51.7
(65.8)	(72.4)	(33.3)	(57.2)	(32.4)	(31.3)	(17.9)	(27.2)

「とても」+「わりと」よかった割合
()内は「とてもよかった」割合

表25 今のクラスになってよくなかったと思う

(%)

上位群				下位群			
A	B	C	平均	X	Y	Z	平均
2.6	0.0	11.1	4.6	20.6	9.4	25.6	18.5
(0.0)	(0.0)	(2.8)	(0.9)	(14.7)	(3.1)	(7.7)	(8.5)

「あまり」+「ぜんぜん」よくなかった割合
()内は「ぜんぜんよくなかった」割合

表26 担任の先生の家遊びに行きたいと思う

(%)

上位群				下位群			
A	B	C	平均	X	Y	Z	平均
78.9	72.4	63.9	71.7	29.4	12.5	5.1	15.7
(60.5)	(55.2)	(41.7)	(52.5)	(17.6)	(9.4)	(0.0)	(9.0)

「とても」+「わりと」行きたい割合
()内は「とても行きたい」割合

と思う子が平均7割、「将来自分の結婚式に先生を呼びたい」と思う子も4割以上見受けられ、オフィシャルな部分を乗り越えて先生との関係を継続させていきたいと願っているようである。

また、現在の学校では、「学校が楽しくな

い」と思う子が、潜在的にかなり多いと言われているが、表28が示すように、下位群の3クラスでは、平均3割以上にもものぼる子どもたちが、そう答えており、今後の動向が気になる結果である。

表27 担任の先生を将来自分の結婚式に呼びたいと思う

(%)

上位群				下位群			
A	B	C	平均	X	Y	Z	平均
34.2	41.3	45.8	40.4	17.7	6.3	7.7	10.6
(23.7)	(24.1)	(22.9)	(23.6)	(11.8)	(0.0)	(2.6)	(4.8)

「とても」+「わりと」そう思う割合
()内は「とてもそう思う」割合

表28 学校に来るのが楽しみ

(%)

上位群				下位群			
A	B	C	平均	X	Y	Z	平均
71.0	86.2	51.5	69.6	41.1	37.5	43.6	40.7
(36.8)	(44.8)	(22.9)	(34.8)	(23.5)	(15.6)	(15.4)	(18.2)

「とても」+「わりと」楽しみの割合
()内は「とても楽しみ」の割合

15.8	0.0	25.8	13.9	34.3	28.2	30.8	31.1
(0.0)	(0.0)	(2.9)	(1.0)	(8.8)	(18.8)	(15.4)	(14.3)

「あまり」+「ぜんぜん」楽しみでない割合
()内は「ぜんぜん楽しみでない」割合

●担任の評価))

そこでここからは、クラスの子どもの担任の先生に対する気持ちや願いを、一層深く分析していくことにしよう。

表29は、クラスの子子どもたちが、自分の担任をどんな先生と思っているかを、13項目にわたってたずねたものである。

まず、A、B、Cの上位群の3名の先生すべてが下位群の先生よりも数値の高い項目をみつけてみると、「給食のとき、子どもの頃の話をしてくれる」「勉強を熱心に教えてくれる」「心配ごとは一緒に考えてくれる」「まちがえたとき、素直にあやまる」の4項目であることがわかる。

逆に下位群の先生は、「宿題をたくさん出す」「先生の言うことを聞かないと、厳しく叱る」「忘れ物をすると、厳しく叱る」の3項目に特徴的な傾向をみることができる。言い換えれば、上位群の先生には「温かさ、やさしさ」、下位群の先生には「厳しさ、冷たさ」といった共通点がありそうである。

次に表30の、「担任の先生にしてもらったこと」の15項目をみると、上位群の先生に受け持ってもらった子どもたちは「『がんばったね』と言われて、うれしかったこと」「休み時間、外で遊んでくれる」「先生の方からあいさつしてくれたこと」「感激するような話を聞いたこと」といったような、温かみのある項目の数値が高くなっている。

しかし、下位群の先生に受け持たれている

子どもたちは、「先生から冷たく、無視されたこと」「厳しく注意されたこと」「先生が約束を破ったこと」「先生から傷つくようなことを言われたこと」などといった、先生に対するマイナスのイメージの項目で数値が高いことがわかる。

1年4か月という歳月は、上位群の先生にはポジティブなイメージを、下位群の先生にはネガティブなイメージを定着させるのに十分であったといえそうである。

次の表31は、今の担任の先生になって「自分がどう変わったか」をたずねたものである。表によれば、上位群の先生のクラスの子子どもたちは、「嫌いだった勉強が好きになった」「苦手だった鉄棒や跳び箱ができるようになった」「クラスの友だちみんなが仲よくなった」「学校に行くのが楽しみになった」というように、自分やクラスがよい方向へ変わったと高く評価している。

これに対して、下位群の先生のクラスの子子どもたちは、担任の先生のために、「好きだった勉強が嫌いになった」「授業中、おしゃべりするようになった」「勉強がわからなくなってきた」と答えている。しかも決定的なのは、「先生が嫌いになった」と答えた子が3クラスとも上位群のクラスでは考えられないほどの高い数値を示し、平均では46%にも達していることである。

表29 どんな担任の先生か

(%)

	上位群				下位群			
	A	B	C	平均	X	Y	Z	平均
1. 休み時間、外で遊んでくれる	12.8	0.0	70.3	27.7	0.0	0.0	2.6	0.9
2. 授業中、冗談を言って笑わせる	94.9	86.2	83.7	88.3	81.6	9.4	89.7	60.2
3. 給食のとき、子どもの頃の話をしてくれる	41.1	24.1	56.4	40.5	2.9	0.0	0.0	1.0
4. 勉強を熱心に教えてくれる	84.6	96.9	88.6	90.0	76.5	71.9	59.0	69.1
5. 宿題をたくさん出す	23.1	10.7	2.8	12.2	55.9	43.7	46.1	48.6
6. 家で勉強したノートに赤ペンを入れてくれる	94.9	72.4	30.5	65.9	78.8	40.7	56.4	58.6
7. 先生の言うことを聞かないと、厳しく叱る	53.9	48.2	16.7	39.6	78.1	71.9	71.8	73.9
8. 心配ごとは一緒に考えてくれる	60.6	44.3	68.6	57.8	41.1	23.3	17.9	27.4
9. まちがえたとき、素直にあやまる	94.9	93.1	94.4	94.1	51.5	68.8	47.4	55.9
10. 忘れ物をすると、厳しく叱る	18.0	10.3	8.3	12.2	79.4	28.2	78.9	62.2
11. 遅刻や時間に厳しい	15.4	64.3	13.5	31.1	94.1	53.1	87.2	78.1
12. 何か決めるとき、話し合いを大切にする	87.2	100.0	97.8	95.0	90.6	75.1	50.0	71.9
13. 掃除や係の仕事をさぼると、厳しく叱る	53.9	62.0	40.5	52.1	91.2	40.7	86.9	72.9

「とても」+「わりと」その割合

表30 担任の先生にしてもらったこと

(%)

	上位群				下位群			
	A	B	C	平均	X	Y	Z	平均
1. 先生からほめられたこと	36.9	35.7	21.6	31.4	11.7	3.1	28.2	14.3
2. 「がんばったね」と言われて、うれしかったこと	50.0	35.7	25.0	36.9	20.5	3.1	20.5	14.7
3. 休み時間、外で遊んでくれる	2.7	0.0	44.4	15.7	0.0	0.0	0.0	0.0
4. 先生の方からあいさつしてくれたこと	81.1	50.0	55.6	62.2	26.5	28.1	34.3	29.6
5. 放課後、わからないところを一生懸命教えてもらったこと	10.5	7.1	47.3	21.6	8.8	6.2	7.8	7.6
6. お手伝いを頼まれたこと	68.5	40.7	51.3	53.5	50.0	28.1	59.0	45.7
7. 休日、先生とみんなで遊びに行ったこと	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8. 困っていることを相談にのってもらったこと	7.9	17.8	13.9	13.2	14.7	3.2	2.6	6.8
9. 感激するような話を聞いたこと	16.2	39.3	8.1	21.2	2.9	3.1	2.6	2.9
10. 先生から冷たく、無視されたこと	0.0	0.0	0.0	0.0	11.7	9.4	28.2	16.4
11. 厳しく注意されたこと	13.2	14.2	5.6	11.0	32.3	35.4	33.3	33.7
12. 先生が約束を破ったこと	5.2	0.0	2.8	2.7	5.9	22.6	22.8	17.1
13. いくら手を挙げて、指してもらえなかったこと	0.0	0.0	8.4	2.8	5.9	16.2	18.0	13.4
14. やりたくない係の仕事をさせられたこと	0.0	0.0	5.6	1.9	2.9	12.5	28.2	14.5
15. 先生から傷つくようなことを言われたこと	0.0	0.0	2.8	0.9	17.6	15.6	29.0	20.7

「しょっちゅう」＋「わりと」ある割合

表31 今の担任の先生になって自分が変わったと思うこと

(%)

	上位群				下位群			
	A	B	C	平均	X	Y	Z	平均
1. 嫌いだった勉強が好きになった	50.0	64.3	48.6	54.3	41.2	9.6	23.1	24.6
2. 苦手だった鉄棒や跳び箱ができるようになった	52.7	50.0	33.3	45.3	32.4	25.9	20.5	26.3
3. 食べ物に好き嫌いがなくなった	2.6	17.1	19.5	13.1	14.7	15.6	31.6	20.6
4. 家でよく勉強するようになった	29.0	53.5	38.9	40.5	41.2	6.2	28.2	25.2
5. 休み時間、外で遊ぶようになった	21.0	14.3	31.4	22.2	29.4	31.3	29.0	29.9
6. 学校に行くのが楽しみになった	56.7	67.8	47.2	57.2	18.2	12.5	15.4	15.4
7. クラスの友だちみんなが仲よくなった	52.6	85.7	59.4	65.9	39.4	31.3	33.3	34.7
8. 本を読むようになった	23.7	28.6	22.2	24.8	27.3	19.4	33.3	26.7
9. 時間を守るようになった	44.8	46.5	21.6	37.6	35.5	18.8	58.9	37.7
10. 忘れ物をしなくなった	42.1	57.1	19.4	39.5	20.6	21.9	56.4	33.0
11. 好きだった勉強が嫌いになった	5.3	3.6	0.0	3.0	14.7	21.9	33.3	23.3
12. 勉強がわからなくなった	2.6	7.1	5.6	5.1	18.2	25.1	18.4	20.6
13. 授業中、おしゃべりするようになった	7.9	10.7	16.7	11.8	23.5	37.5	28.2	29.7
14. 先生が嫌いになった	0.0	0.0	0.0	0.0	55.9	35.5	46.1	45.8

「とても」+「わりと」そう思う割合

●クラス集団の差異)))

では、次にクラスの様子を比較してみることによろ。表32によれば、クラスによって多少のバラつきはあるものの、上位群のクラスは「先生がいなくても、掃除を熱心にする子」や「係の仕事をしっかりする子」が多い。また「休み時間になると、先生のまわりに子どもたちが集まり」「先生と一緒に遊ぼうとさそう子」が多い。加えて、先生やクラスに対する信頼感や安心感があるため、授業中、「静かにしなさい」とやさしく注意されるだけで、クラスの子どもたちはみんなが静かになるという雰囲気があるようである。

しかし、下位群のクラスは、「授業中に無駄話をする子」が多く、「係の仕事や掃除も、

あまり熱心ではない」ようで、集団におけるモラルの低下が気になる結果である。また、先生に対しても、他人行儀のつきあいしかしていないように見受けられる。

さらに、表33、表34からもわかるように、上位群のクラスは、「いろいろな人がクラスの代表となり、係の仕事に協力的」で、「楽しいクラス」であると評価している。

やはり、上位群の先生のクラスは、下位群の先生のクラスと比べて、おおむね児童の先生に対する評価が高く、子どもたち相互の人間関係も円滑に行われていることがはっきりとわかる。

表32 あなたのクラスはどんなクラスか

(%)

	上位群				下位群			
	A	B	C	平均	X	Y	Z	平均
1. 忘れ物をしたとき、表やカードに記入する	25.7	93.1	13.9	44.2	18.2	12.6	15.4	15.4
2. チャイムが鳴って先生が来るまで、次の勉強の教科書を自分で読んでいる人が多い	0.0	10.3	14.3	8.2	8.8	3.1	10.3	7.4
3. 授業終わりのチャイムが鳴ると、すぐ本やノートを片づける人が多い	74.3	82.7	55.6	70.9	58.8	50.0	76.9	61.9
4. 授業中、手を挙げずに答える人が多い	43.5	25.9	50.6	40.0	67.6	34.4	58.9	53.6
5. 先生に「静かにしなさい」と注意されたら、すぐ静かになる	46.1	86.2	38.5	56.9	14.7	31.1	38.5	28.1
6. 授業中、となりの子や後ろの子と無駄話をする人が多い	43.5	37.9	55.7	45.7	76.5	56.2	82.1	71.6
7. 失敗すると「エー」と言ったり、笑ったりする人がいるので発表しにくい	77.0	24.1	40.0	47.0	44.1	50.0	59.0	51.0
8. 体育のとき、先生が来るまでに準備運動をすませておく	12.9	13.8	54.2	27.0	63.7	25.0	7.7	32.1
9. 先生がいなくても、掃除を熱心にする人が多い	25.8	39.3	42.9	36.0	11.8	15.7	23.1	16.9
10. 係の仕事をしっかりする人が多い	61.5	39.3	30.6	43.8	17.7	16.2	28.2	20.7
11. 休み時間、先生のまわりにすぐ子どもが集まる	69.3	71.4	31.4	57.4	8.8	3.1	5.1	5.7
12. 休み時間、教室でぶらぶらしている人が多い	47.4	50.0	40.0	45.8	54.5	31.3	41.0	42.3
13. 昼休み、「先生も一緒に遊ぼう」とさそう人が多い	10.3	10.3	45.7	22.1	0.0	0.0	0.0	0.0

「とても」+「わりと」そう思う割合

表33 クラスの様子や雰囲気

(%)

	上位群				下位群			
	A	B	C	平均	X	Y	Z	平均
1. 休み時間、クラスみんなが遊んでいたら、その仲間に入る人が多い	52.7	89.6	65.7	69.3	44.2	62.4	66.6	57.7
2. 学級活動の話し合いのとき、自分の意見を発表する人が多い	36.9	69.6	50.0	52.2	58.9	43.8	58.7	53.8
3. 行事のとき、いろいろな人がクラスの代表になる	36.9	50.0	48.6	45.2	35.3	34.4	28.2	32.6
4. 同じクラスの人がけんかをしていたら、止めに入る人が多い	36.9	75.8	80.6	64.4	57.5	13.0	35.9	35.5
5. グループ活動になると、いつも決まったグループになる	81.5	79.3	66.7	75.8	85.3	68.8	79.5	77.9
6. 係の仕事などをするとき、係以外の人も協力してくれる	40.5	64.2	48.6	51.1	21.2	29.1	15.4	21.9

「とても」＋「わりと」そう思う割合

表34 他のクラスと比べて自分のクラスの特徴

(%)

	上位群				下位群			
	A	B	C	平均	X	Y	Z	平均
1. よく勉強するクラス	34.2	64.2	14.3	37.6	14.7	29.2	17.9	20.6
2. 楽しいクラス	89.5	100.0	82.8	90.8	61.8	62.6	76.9	67.1
3. 授業中、よく手を挙げるクラス	34.2	58.6	22.2	38.3	14.7	40.7	28.2	27.9
4. クラスの約束をよく守るクラス	13.1	79.3	25.0	39.1	5.9	12.6	30.8	16.4
5. 男女の仲がよいクラス	23.7	89.6	31.5	48.3	32.4	15.6	23.1	23.7
6. よく運動するクラス	57.9	86.2	28.6	57.6	38.3	62.5	46.1	49.0
7. まとまりがあるクラス	15.8	86.2	19.4	40.5	8.8	34.4	46.1	29.8

「とても」＋「わりと」そう思う割合

●担任への信頼))

さて、これまでみてきたように、クラスのおおよその様子も明らかになってきたところで、担任教師への満足度や信頼度について、さらに深く分析していくことにしたい。

表35、表36は、「担任の先生が自分のことをどのくらい知ってくれるか」と、「担任の先生のことをどのくらい知っているか」

をたずねたものである。

おもしろいことに、表36の担任への知識は上位群、下位群ともに、大きな差は認められない。つまり、先生へのプライベートな知識は両群ともに高くないようだ。しかし、表35が示すように、「自分のことをどのくらい知ってくれるか」については、上位群の

表35 担任の先生がどのくらい自分のことを知っているか

(%)

	上位群				下位群			
	A	B	C	平均	X	Y	Z	平均
1. 仲よしの友だち	92.3	88.2	89.2	89.9	67.7	53.1	87.2	69.3
2. 好きな食べ物	23.1	31.0	15.8	23.3	8.6	12.6	7.7	9.6
3. 得意な教科	66.7	96.6	72.2	78.5	64.7	59.4	71.8	65.3
4. 好きなテレビ番組	15.4	10.3	17.6	14.4	8.6	0.0	2.6	3.7
5. 家に帰ってからの過ごし方	23.1	20.6	29.7	24.5	17.2	6.3	12.9	12.1
6. 悩み	18.0	27.6	22.8	22.8	17.2	6.5	10.3	11.3

「よく」+「わりと」知っていると思う割合

クラスの子どもたちが、どの項目についても、はっきりと数値が高くなっており、「仲よしの友だち」や「好きな食べ物」だけでなく、「プライベートな生活や悩み」といった心理的な側面にまで、担任の先生が理解を示していてくれると判断している。

表37は、「現在の担任がどのくらい頼りになるか」という信頼度をたずねたものである。表をみれば一目瞭然であるが、上位群の先生のクラスは8項目すべてにおいて、下位群の先生のクラスを大きく上回る高い数値を示し

ている。特に勉強面において、「勉強の仕方がわからないとき」は、9割以上の子が先生を頼りにしており、「成績が下がってしまったとき」でも、6～7割の子が、先生を頼りにしている。

また、「いじめ」や「不登校」、「友人とのけんか」などの問題も、平均6～7割の子どもから頼りにされている。さらに6年生になると、秘密志向になる異性との問題でも、クラスによっては3～4割の子が「頼りになる」という驚くべき結果であり、下位群の先

表36 担任の先生のことをどのくらい知っているか

(%)

	上位群				下位群			
	A	B	C	平均	X	Y	Z	平均
1. 先生の下の名前	100.0	96.6	97.3	98.0	79.4	93.8	100.0	91.1
2. 職員室の先生の机の場所	41.0	82.8	80.6	68.1	94.3	68.8	76.9	80.0
3. 先生の家はどここの駅で降りるのか	28.2	93.1	50.0	57.1	14.3	15.6	33.3	21.1
4. 先生の家族の人数	20.5	27.6	5.4	17.8	80.0	80.6	7.7	56.1
5. 先生が小学校の頃、得意だったスポーツ	20.5	27.6	5.4	17.8	11.4	37.5	10.5	19.8
6. 先生の出た大学	10.3	0.0	0.0	3.4	2.9	0.0	5.1	2.7

「知っている」割合

生のクラスではまったく考えられない数値の高さといえよう。

このように信頼度に関する項目で、上位群と下位群の先生に対する評価が、これほどはっきりとした差として表れた子どもたちのシャープな反応ぶりに、改めて驚かされた。

新学年を迎える4月当初、学校では受け持ちの先生が誰になるかで、子どもたちが一喜一憂するシーンはあまりにも鮮明である。ま

た、子を持つ親たちは「〇〇先生なら当たり、□□先生ならハズレ」といったようなことを、子どもの前でも平気で口にしようである。こうしたことは、私たち小学校教師にとっては、あまり知りたくない、聞きたくない部分ではあるが、今回の調査結果を分析するにしたいが、子どもや親の立場を考えると、避けて通ってよいものではなさそうである。

表37 担任の先生がどのくらい頼りになるか

(%)

	上位群				下位群			
	A	B	C	平均	X	Y	Z	平均
1. 勉強の仕方がわからないとき	100.0	88.8	94.4	94.4	73.5	40.7	56.4	56.9
2. 成績が下がってしまったとき	76.3	63.6	62.8	67.6	48.5	12.5	28.2	29.7
3. 学校に行きたくなくなったとき	75.6	61.1	61.8	66.2	43.8	36.7	21.0	33.8
4. 友だちにいじめられたとき	76.3	52.7	70.6	66.5	30.3	19.3	26.3	25.3
5. 中学受験など、進路を相談したいとき	61.1	38.9	58.9	53.0	35.5	22.6	38.5	32.2
6. 好きな男の子(女の子)ができたとき	13.9	40.0	26.4	26.8	3.2	0.0	0.0	1.1
7. 家出したくなるほど、親に叱られたとき	41.6	46.6	26.4	38.2	19.3	6.5	5.1	10.3
8. クラスの友だちとけんかしたとき	71.4	62.9	57.6	64.0	34.4	21.9	10.3	22.2

「とても」+「わりと」頼りになる割合

●担任を比較して)))

そこで、教師として多少心苦しい気持ちはあるのだが、本調査を一層深める意味で、上位群と下位群の中からそれぞれ1クラスずつチョイスして、どれだけの差が現実起こりえるのか、数値の上で実証してみることにしたい。

まず、表38の比較分析表①をみてほしい。この表は、ある小学校の6年1組を上位群トップのA先生が受け持ち、となりの6年2組を最下位のZ先生が受け持ったと仮定した場合、となり同士の学級で担任による変化がどのようであるのかをみてみようとしたものである。

まず、表の中で着目していただきたいのは担任への満足度の差が87%、クラスへの満足度の差が41%であるにもかかわらず、Z先生の自己採点はA先生と同じ70点であること。しかも学級経営の評価も△印の「少しうまくいっている」としていることである。しかし現実の子どもたちの評価は、表中に示した通り、多くの項目で大きな差が表れており、Z先生が子どもたちから受け入れられていない姿が目にとまる。

例えば、A先生のクラスの子は、担任の先生に対し、「何か決めるときは、話し合いを大切に」「まちがえたとき、素直にあやまり」「家で勉強したノートに赤ペンを入れてくれ」「心配ごとは一緒に考え」「給食のとき、子どもの頃の話などもしてくれ」肝心の勉強も「熱心に教えてくれる」先生。さらに「先生の方からあいさつしてくれ」「がんばったね」などのほめ言葉を常に子どもたちに投げかけてくれる「温かみのある先生」と映し出されている。

しかし、となりのZ先生のクラスの子は、「仕事をさぼったり、忘れ物をしたりすると

厳しく叱られ」「遅刻や時間に厳しい」態度で子どもに迫り、クラスの3割近くの子が「先生から無視されたり、傷つくようなことを言われた」と感じている。そのため、「先生が嫌いになった」子はクラスの半数近くにも及ぶ48%と、となりのA学級とはまったく対照的である。

また、A学級の子どもたちの半数近くが、先生のおかげで「苦手科目ができるようになったり、好きになったり」「学校に行くのが楽しみになった」と答えているし、「勉強がわからないとき」は100%の子が、「いじめ」にあったときもクラスの4分の3の子が先生を頼りにすると答えている。

一方、Z学級の子は「授業中に無駄話をする」子が8割以上に増え、「係の仕事をしっかりする」子も3割以下、「好きだった勉強が嫌いになった」子は全体の3分の1にもなる。しかも、「休み時間に、先生のまわりに集まる」子はほとんどなく、「先生の家遊びに行きたい」と思う子もわずかであり、A先生のクラスとはまったく正反対の結果となっている。

もし、こうしたクラスがとなり同士で存在したとすると、Z学級の子どもたちの不幸さに、ただ同情するばかりである。

続いて表39の比較分析表②のB学級とY学級の場合をみてみよう。

先ほどの表38（比較分析表①）と同じように、多くの項目で数値の開きがあることがわかる。特に項目の番号19～27までに示した、モラルに関する項目で、大きな差が顕著に表れていることがわかる。また、先生自身の自己採点に開きがあるのと同様、子どもたちも自分のクラスの様子や雰囲気の良し悪しを的確に捉えているようである。

表38 2クラスの比較分析表-① (A学級とZ学級の場合)

		上位群A	下位群Z	差
満足度	1. 担任への満足度	100.0	13.1	86.9%
	2. クラスへの満足度	86.8	46.1	40.7
自己評価	3. 自己採点	70点	70点	0点
	4. 学級経営への評価	〇わりとうまく いている	△少しくまくい っている	1ランク
子どもたちの見た担任評価	5. 勉強を熱心に教えてくれる	84.6	59.0	25.6%
	6. 給食のとき、子どもの頃の話をして くれる	41.1	0.0	41.1
	7. 心配ごとは一緒に考えてくれる	60.6	17.9	42.7
	8. まちがえたとき、素直にあやまる	94.9	47.4	47.5
	9. 忘れ物をすると、厳しく叱る	18.0	78.9	-60.9
	10. 遅刻や時間に厳しい	15.4	87.2	-71.8
	11. 何か決めるとき、話し合いを大切に する	87.2	50.0	37.2
	12. 掃除や係の仕事をさぼると、厳しく 叱る	53.9	86.9	-33.0
	13. 家で勉強したノートに赤ペンを入れ てくれる	94.9	56.4	38.5
	担任からしてもらったこと	14. 先生の方からあいさつしてくれたこと	81.1	34.3
15. 先生から冷たく、無視されたこと		0.0	28.2	-28.2
16. やりたくない係の仕事をさせられた こと		0.0	28.2	-28.2
17. 先生から傷つくようなことを言われ たこと		0.0	29.0	-29.0
18. 「がんばったね」と言われて、うれ しかったこと		50.0	20.5	29.5

(次ページへ)

		上位群A	下位群Z	差
今の担任になって変わったこと	19. 先生が嫌いになった	0.0	46.1	-46.1%
	20. 好きだった勉強が嫌いになった	5.3	33.3	-28.0
	21. 学校に行くのが楽しみになった	56.7	15.4	41.3
	22. 嫌いだった勉強が好きになった	50.0	23.1	26.9
	23. 苦手だった鉄棒や跳び箱ができるようになった	52.7	20.5	32.2
子どもたちの見たクラスの様子	24. 休み時間、先生のまわりにすぐ子どもが集まる	69.3	5.1	64.2
	25. 係の仕事をしっかりする人が多い	61.5	28.2	33.3
	26. 授業中、となりの子や後ろの子と無駄話をする人が多い	43.5	82.1	-38.6
担任への信頼	27. 勉強の仕方がわからないとき頼りになる	100.0	56.4	43.6
	28. 友だちにいじめられたとき頼りになる	76.3	26.3	50.0
	29. 先生の家遊びに行きたい	78.9	5.1	73.8

*25%以上差のついた項目から「とても」+「わりと」の割合

表39 2クラスの比較分析表-② (B学級とY学級の場合)

		上位群B	下位群Y	差
満足度	1. 担任への満足度	96.6	15.6	81.0%
	2. クラスへの満足度	93.1	53.2	39.9
自己評価	3. 自己採点	90点	40点	50点
	4. 学級経営への評価	◎とてもうまく いっている	×ぜんぜんうまく いない	3ランク
子どもたちの 見た担任評価	5. 宿題をたくさん出す	10.7	43.7	-33.0%
	6. 家で勉強したノートに赤ペンを入れて くれる	72.4	40.7	31.7
	7. 授業中、冗談を言って笑わせる	86.2	9.4	76.8
担任からして もらったこと	8. 先生からほめられたこと	35.7	3.1	32.6
	9. 「がんばったね」と言われて、うれ しかったこと	35.7	3.1	32.6
	10. 感激するような話を聞いたこと	39.3	3.1	36.2
今の担任になって 変わったこと	11. 嫌いだった勉強が好きになった	64.3	9.6	54.7
	12. 家でよく勉強するようになった	53.5	6.2	47.3
	13. 学校に行くのが楽しみになった	67.8	12.5	55.3
	14. クラスの友だちみんなが仲よくなっ た	85.7	31.3	54.4
	15. 時間を守るようになった	46.5	18.8	27.7
	16. 忘れ物をしなくなった	57.1	21.9	35.2
	17. 授業中、おしゃべりするようになっ た	10.7	37.5	-26.8
	18. 先生が嫌いになった	0.0	35.5	-35.5

(次ページへ)

		上位群B	下位群Y	差
子どもたちの見たクラスの様子	19. 先生に「静かにしなさい」と注意されたら、すぐ静かになる	86.2	31.1	55.1%
	20. 休み時間、先生のまわりにすぐ子どもが集まる	71.4	3.1	68.3
	21. 失敗すると「エー」と言ったり、笑ったりする人がいるので発表しにくい	24.1	50.0	-25.9
	22. 同じクラスの人がけんかをしていたら、止めに入る人が多い	75.8	13.0	62.8
	23. 係の仕事などをするとき、係以外の人も協力してくれる	64.2	29.1	35.1
	24. クラス全体がよく勉強する	64.2	29.2	35.0
	25. クラスの約束がよく守られている	79.3	12.6	66.7
担任への信頼	26. クラスのまとまりがある	86.2	34.4	51.8
	27. クラスの男女の仲がよい	89.6	15.6	74.0
	28. 勉強の仕方がわからないとき頼りになる	88.8	40.7	48.1
	29. 好きな男の子（女の子）ができたとき頼りになる	40.0	0.0	40.0
	30. クラスの友だちとけんかしたとき頼りになる	62.9	21.9	41.0

*25%以上差のついた項目から「とても」+「わりと」の割合

●信頼される条件)))

そこでこうした差異が生まれる原因は何なのか。最後に一覧表にして示した表40をご覧くださいながら、今回の調査のまとめをしていくことにする。

(1)~(2)は、担任の行動や接触の仕方が、これまでみてきた各3名ずつの上位群と下位群では、どのように異なるのかを調べるために、平均の%の多い項目に順位をつけて表示してある。上位群の先生を特徴づける項目は、「給食のとき、子どもの頃の話をしてくれる」「まちがえたとき、素直にあやまる」「先生の方からあいさつしてくれる」「心配ごとと一緒に考えてくれる」「授業中、冗談を言って笑わせる」「休み時間、外で遊んでくれる」「『がんばったね』と言ってうれしくさせてくれる」「感激するような話をしてくれる」といった、「やさしさ」や「温かさ」「謙虚さ」のあふれるものである。

反対に、下位群の先生は、「忘れ物に厳しい」「遅刻や時間に厳しい」「宿題をたくさん出す」「傷つくようなことを言う」「無視す

る」「約束を破る」といった項目が上位を占め、子どもたちに対する「厳しさ」や「冷たさ」が下位群の先生を特徴づけていることがわかる。

各群のこうした対応の差が、(3)~(4)に示したように子どもを変え、クラスを変えていくようである。つまり、上位群の先生のクラスの子は、「学校に行くのが楽しみになり」「嫌いだった勉強が好きになり」「苦手な運動もできるようになり」「家でもよく勉強するようになる」ようである。

しかし、下位群のクラスの子は、「担任の先生が嫌いになり」「以前好きだった勉強も嫌いになり」「授業中、おしゃべりするようになり」「勉強がわからない」と答えている。

また、クラスの様子も同様で、特にマナーやモラルの低下が目立ってくるのがわかる。こうした差が、たった1人の担任教師によって引き起こされるとすれば、学級担任制度の持つ大きな欠点を、改めて感じずにはられない。

表40 上位群と下位群を特徴づける項目の一覧表

(1) どんな担任の先生か

(%)

上位群の先生の特徴		下位群の先生の特徴	
項 目	平均の%の差 (上位群-下位群)	項 目	平均の%の差 (下位群-上位群)
1. 給食のとき、子どもの頃の話をしてくれる	39.5 (40.5-1.0)	1. 忘れ物をすると、厳しく叱る	50.0 (62.2-12.2)
2. まちがえたとき、素直にあやまる	38.2 (94.1-55.9)	2. 遅刻や時間に厳しい	47.0 (78.1-31.1)
3. 心配ごとは一緒に考えてくれる	30.4 (57.8-27.4)	3. 宿題をたくさん出す	36.4 (48.6-12.2)
4. 授業中、冗談を言って笑わせる	28.1 (88.3-60.2)	4. 先生の言うことを聞かないと、厳しく叱る	34.3 (73.9-39.6)
5. 休み時間、外で遊んでくれる	26.8 (27.7-0.9)	5. 掃除や係の仕事をさぼると、厳しく叱る	20.8 (72.9-52.1)

「とても」+「わりと」その割合

(2) 担任の先生にしてもらったこと

(%)

上位群の先生の特徴		下位群の先生の特徴	
項 目	平均の%の差 (上位群-下位群)	項 目	平均の%の差 (下位群-上位群)
1. 先生の方からあいさつしてくれたこと	32.6 (62.2-29.6)	1. 厳しく注意されたこと	22.7 (33.7-11.0)
2. 「がんばったね」と言われて、うれしかったこと	22.2 (36.9-14.7)	2. 先生から傷つくようなことを言われたこと	19.8 (20.7-0.9)
3. 感激するような話を聞いたこと	18.3 (21.2-2.9)	3. 先生から冷たく、無視されたこと	16.4 (16.4-0.0)
4. 先生からほめられたこと	17.1 (31.4-14.3)	4. 先生が約束を破ったこと	14.4 (17.1-2.7)
5. 休み時間、外で遊んでくれる	15.7 (15.7-0.0)	5. やりたくない係の仕事をさせられたこと	12.6 (14.5-1.9)

「しょっちゅう」+「わりと」ある割合

(3) 担任の先生によって自分が変わったこと (％)

上位群の先生のクラスの子の特徴		下位群の先生のクラスの子の特徴	
項 目	平均の％の差 (上位群－下位群)	項 目	平均の％の差 (下位群－上位群)
1. 学校に行くのが楽しになった	41.8 (57.2－15.4)	1. 先生が嫌いになった	45.8 (45.8－0.0)
2. クラスの友だちみんなが仲よくなった	31.2 (65.9－34.7)	2. 好きだった勉強が嫌いになった	20.3 (23.3－3.0)
3. 嫌いだった勉強が好きになった	29.7 (54.3－24.6)	3. 授業中、おしゃべりするようになった	17.9 (29.7－11.8)
4. 苦手だった鉄棒や跳び箱ができるようになった	19.0 (45.3－26.3)	4. 勉強がわからなくなった	15.5 (20.6－5.1)
5. 家でよく勉強するようになった	15.3 (40.5－25.2)	5. 休み時間、外で遊ぶようになった	7.7 (29.9－22.2)

「とても」＋「わりと」そう思う割合

(4) クラスの様子や雰囲気 (％)

上位群の先生のクラスの特徴		下位群の先生のクラスの特徴	
項 目	平均の％の差 (上位群－下位群)	項 目	平均の％の差 (下位群－上位群)
1. 休み時間、先生のまわりにすぐ子どもが集まる	51.7 (57.4－5.7)	1. 授業中、となりの子や後ろの子と無駄話をする人が多い	25.9 (71.6－45.7)
2. 係の仕事などをするとき、係以外の人も協力してくれる	29.2 (51.1－21.9)	2. 授業中、手を挙げずに答える人が多い	13.6 (53.6－40.0)
3. 同じクラスの人がけんかをしていたら、止めに入る人が多い	28.9 (64.4－35.5)	3. 体育のとき、先生が来るまでに準備運動をすませておく	5.1 (32.1－27.0)
4. 先生に「静かにしなさい」と注意されたら、すぐ静かになる	28.8 (56.9－28.1)	4. 失敗すると「エー」と言ったり、笑ったりする人がいるので発表しにくい	4.0 (51.0－47.0)
5. クラスの男女の仲がよい	24.6 (48.3－23.7)	5. グループ活動になると、いつも決まった人がグループになる	2.1 (77.9－75.8)

「とても」＋「わりと」そう思う割合

●まとめに代えて))

今回の調査に協力してくれた先生方は、自分の授業の腕や学級経営に対して、比較的自信のある実力派の教師たちであり、特に「熱心に教える態度」や「授業研究の深さ」「指導法の研究」などは、かなり優秀であるように思う。しかし一方では、今回の調査結果が示したように、子どもたちの先生に対する評価にかなり大きな差が認められた。

つまり私たちは、ふだんは授業中心の研究やその他の雑務に追われ、子どもを「集団の学習者」として扱うことに慣れてしまい、子ども一人一人の気持ちを理解していくことを

忘れがちである。

確かに、「叱ること」や「厳しく指導すること」は、時として必要であろうが、やはりその基盤にあるのは教師と子どもの互いの信頼関係であろう。

表40に示したように、子どもたちは一人一人の子どもの動きに敏感に反応する教師を歓迎し、そうした教師に担任してほしいと答えている。教師は子どもを教えている人以前に、子どもと親しくしなければならない。そうしたことを痛感したのが、今回の調査結果だった。